

GE265

E6



解字國籍漢大二

卷二第

Kodak Color Control Patches

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Gray Scale

C

Y

M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A

1

2

3

4

5

6

M

8

9

10

11

12

13

14

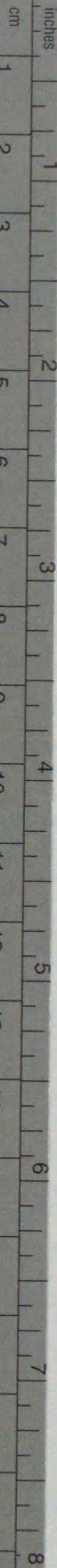
15

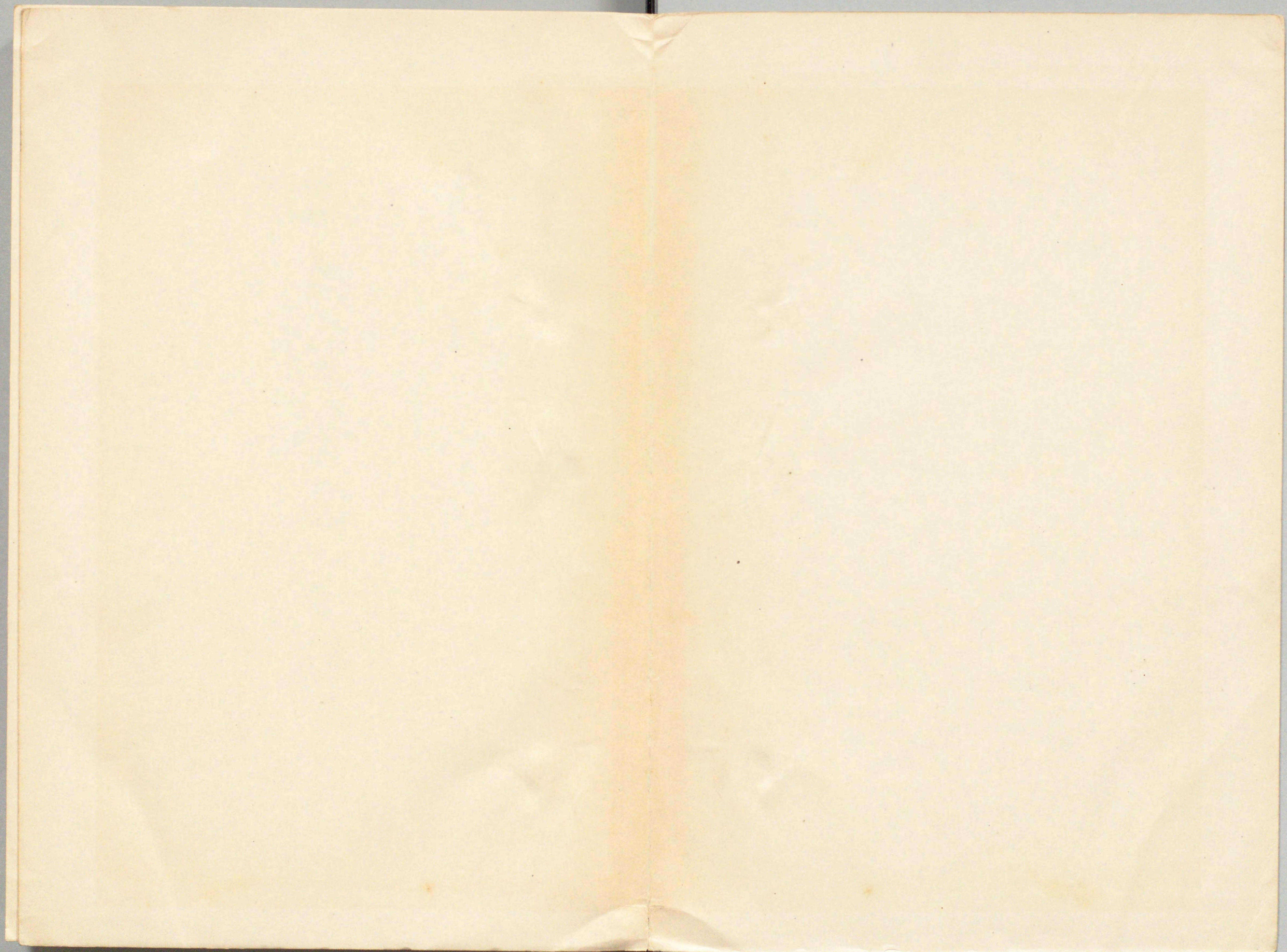
B

17

18

19





第二卷

二大漢藉國字解

早稻田大學出版部

第二卷

二大漢藉國字解

早稲田大學出版部

GE265
E6

史記國字解第二卷目錄

卷二第

史記十表八書

桂湖村講述



79W28861

史記國字解第二卷 目錄

十表	一
三代世表第一	一
十二諸侯年表第二	三
六國表第三	三
秦楚之際月表第四	八
漢興以來諸侯年表第五	一〇五
高祖功臣侯者年表第六	一三〇
惠景間侯者年表第七	一六六
建元以來侯者年表第八	一八二
建元以來王子侯者年表第九	一八五
漢興以來將相名臣年表第十	二一〇

八書	三三
禮書第一	三三
樂書第二	三五
律書第三	三五
歷書第四	三四九
天官書第五	三七二
封禪書第六	四四
河渠書第七	五三
平準書第八	五四五

(目錄了)

史記國字解第一卷

史記國字解第一卷

湖村 桂 五十郎 講述

三代世表第一

太史公曰、五帝三代之記、尙矣、自殷以前、諸侯不可得而譜、周以來、乃頗可著、孔子因史文、次春秋紀元年正時日月、蓋其詳哉、至於序尙書、則略無年月、或頗有、然多闕、不可錄、故疑則傳、疑蓋其慎也、余讀課記、黃帝以來、皆有年數、稽其歷譜、課終始、五德之傳、古文咸不同、乖異、夫

子之弗論次其年月、豈虛哉、於是、以五帝繫課尙書集、世紀黃帝以來、訖共和、爲世表、

【講義】太史公曰く、五帝三代の記録は、其の時代久遠なれば之を詳に知るべからず、故に殷より以前の諸侯の事跡は得て布き列すべからず、周より以來は其の記録存すれば頗る詳に著すことを得べし、孔子が史官の文に因りて春秋を著すや、王の元年正月及び四時日月を細かに紀せり、蓋し是れ著して詳にすべかりしを以てなり、されど其の尙書を序づるに至りては、尙古のことなれば略年月の記載無し、或は年月の記すべきもの有りしならむ、然れども多くは闕けて悉く録すべからず、故に疑はしきは傳へて疑はしきとなせり、蓋し是れ詳にすべからざるを以て之

を慎めるなり、余系謚を記したる謀記を讀むに、黃帝より以來は皆年數あり、又其の歷譜謀と終始五德の傳とを稽ふるに、古文不同にして乖き違へり、故に夫子の尙書を編次せし時に其の年月を載せ論ぜざりしは理由無きにあらざりしなり、是に於て余亦五帝・繫謀及び尙書集の三篇に據りて、世々黃帝より以來周の共和の時に至るまでを紀して世表を作れり、

らしめたる書なり、正時、正月と四時となり、尙書、書經のこと、唐虞三代の記録なり、謀記、世系謚號を記したる書なり、歷譜謀、歷代の系譜を記したる書なり、終始五德之傳、帝王の更々王たるは五行の相生相克の理によりて相傳承するといふことを記したる書なり、終始とは五行の德によりて世を承け、終れば復始まるをいふ、例へば五行相生の説によれば木德より火德に移り火德より土德に譲り、次第に相承けて金水となり、水德終れば復始めの木德に更るが如し、五德は五行の德なり、五帝・繫謀、大戴禮の五帝・帝繫二篇の謀なり、共和、周の宣王の時、召公、周公の二相共に政を執りし時の稱なり、

帝王	號世	顓頊屬	倍屬	堯屬	舜屬	夏屬	殷屬	周屬
黃帝	號有熊	黃帝生昌意、	黃帝生玄囂、	黃帝生玄囂、	黃帝生昌意、	黃帝生昌意、	黃帝生玄囂、	黃帝生玄囂、
帝顓頊	黃帝孫、起黃帝至顓頊三世、	昌意生顓頊、為高陽氏、	玄囂生螭極、	玄囂生螭極、	昌意生顓頊、顓頊生窮蟬、	昌意生顓頊、	玄囂生螭極、螭極生高辛、	玄囂生螭極、螭極生高辛、
帝倍	黃帝曾孫、起黃帝至帝倍四世、號高辛、	螭極生高辛、高辛生帝倍、	螭極生高辛、高辛生放助、	窮蟬生敬康、敬康生句望、	高辛生高、	高辛生高、	高辛生后稷、為周祖、	

帝堯	起黃帝至倍子五世、號唐堯、	放助是為堯、	句望生螭牛、螭牛生瞽瞍、	高為殷祖、	后稷生不窋、
帝舜	黃帝之孫之玄孫、號虞、	瞽瞍生重華、是為帝舜、	顓頊生緜、緜生文命、	高生昭明、	不窋生鞠、
帝禹	黃帝耳孫、號夏、	文命是為禹、	昭明生相土、	鞠生公劉、	
帝啓	伐有扈、作甘誓、	相土生昌若、	昌若生曹圉、曹圉生冥、	公劉生慶節、	
帝太康		冥生振、	振生微、微生報丁、	慶節生皇僕、皇僕生差弗、	
帝仲康	太康弟、	報丁生報乙、報乙生報丙、	報丙生主壬、主壬生主癸、	差弗生毀淪、毀淪生公非、	
帝相		公非生高圉、高圉生亞圉、	亞圉生公祖類、		
帝少康		王廩父、	王廩父、		
帝予		主癸生天乙、是為殷湯、	昌益易卦、		
帝槐		文王昌生武王發、			
帝芒					

帝泄 帝不降 帝肩 帝孔 帝履 帝發

帝不降弟 帝孔甲 龍去 帝履 是爲桀

帝發 是爲桀

從禹至桀十七世，從黃帝至桀二十世，

殷湯代夏氏，從黃帝至湯十七世，

湯太子太丁蚤卒，故立次弟外丙，

外丙弟，

帝仲壬 故太子太丁子淫，伊尹放之桐宮，三年悔過，自責伊尹乃迎之復位，伊尹卒，

帝太甲 沃丁弟，

帝太庚 太庚弟，殷道衰，諸侯或不至，

帝小甲 小甲弟，

帝雍己 雍己弟，以桑殺生，稱中宗，

帝太戊 帝中丁

從湯至紂二十九世，從黃帝至紂四十六世，

周武王伐殷，從黃帝至武王二十九世，

帝祖乙 祖辛弟，

帝祖甲 祖甲子，

帝祖辛 祖丁子，

帝南庚 陽甲弟，徙河南，

帝陽甲 盤庚弟，

帝盤庚 盤庚弟，

帝小辛 盤庚弟，

帝小乙 小辛弟，

帝武丁 維升鼎耳，確得傳說，稱高宗，

帝祖庚 祖庚弟，淫，

帝祖甲 祖庚弟，淫，

帝廩 廩辛弟，殷徙河北，

帝武乙 慢神，震死，

帝太丁 殷益衰，

帝乙 是爲紂，死，

帝辛 是爲紂，死，

成王誦	周公旦	魯
太公尙	齊	
唐叔虞	晉	
惡來，助紂，父飛廉有力	秦	
熊繹，繹父鬻熊	楚	
微子啓	宋	
康叔	衛	
胡公滿	陳	
叔度	蔡	
叔振鐸	曹	
召公奭	燕	
武王弟	初封	武王弟
文王武王師	初封	武王弟
武王子	初封	武王弟
事文王	初封	武王弟
紂庶兄	初封	武王弟
武王弟	初封	武王弟
舜之後	初封	武王弟
武王弟	初封	武王弟
武王弟	初封	武王弟
周同姓	初封	武王弟

康王釗	魯公伯禽	丁公呂伋	晉侯燹	女防	熊父	微仲啓弟	康伯	申公	蔡仲	九世至
昭王瑕	考公	乙公	武侯	旁阜	熊黹	宋公	孝伯	相公	蔡伯	太伯
穆王滿	考公	癸公	成侯	大几	熊勝	丁公	嗣伯	孝公	宮侯	仲君
恭王伊扈	幽公	哀公	厲侯	大駱	熊燭	丁公弟	走伯	慎公	厲侯	宮伯
懿王堅	魏公	胡公	靖侯	非子	熊渠	潘揚公弟	靖伯	幽公	武侯	孝伯
孝王方	厲公	獻公紇	胡公	秦侯	熊無康	厲公	貞伯	釐公		夷伯
夷王燹	厲公	武公	秦侯	熊無康	釐公	頃侯				
厲王胡	厲公	秦仲	熊延	釐侯						
共伯和	武公	熊勇								

張夫子問褚先生曰，詩言契后稷，皆無父而生，今案諸傳記，咸言有

父、父皆黃帝子也、得無與詩謬乎、
褚先生曰、不然、詩言契生於卵、后
稷人迹者、欲見其有天命精誠之
意耳、鬼神不能自成、須人而生、奈
何、無父而生乎、一言有父、一言無
父、信以傳信、疑以傳疑、故兩言之、
堯知契、稷皆賢人、天之所生、故封
之、契七十里、後十餘世至湯、王天
下、堯知后稷子孫之後王也、故益
封之百里、其後世且千歲、至文王
而有天下、詩傳曰、湯之先為契、無
父而生、契母與姊妹浴於玄丘水、
有燕銜卵墮之、契母得、故含之、誤
吞之、即生契、契生而賢、堯立為司
徒、姓之曰子氏、子者茲、茲益大也、

詩人美而頌之曰、殷社芒芒、天命
玄鳥降而生商、商者質、殷號也、文
王之先為后稷、后稷亦無父而生、
后稷母為姜嫄、出見大人、蹟而履
踐之、知於身、則生后稷、姜嫄以為
無父、賤而棄之、道中羊牛避不踐
也、抱之山中、山者養之、又捐之大
澤、鳥覆席食之、姜嫄怪之、於是知
其天子、乃取長之、堯知其賢才、立
以為大農、姓之曰姬氏、姬者本也、
詩人美而頌之曰、厥初生民、深修
益成、而道后稷之始也、孔子曰、昔
者堯命契為子氏、為有湯也、命后
稷為姬氏、為有文王也、大王命季
歷、明天瑞也、太伯之吳、遂生源也、

天命難言、非聖人莫能見、舜禹契
后稷皆黃帝子孫也、黃帝策天命
而治天下、德澤深、後世故其子孫
皆復立為天子、是天之報有德也、
人不知、以為汜從布衣匹夫起耳、
夫布衣匹夫安能無故而起王天下
下乎、

【講義】張夫子褚先生に問ひて曰く、詩經の玄
鳥・生民の二篇によれば契と后稷とは皆父無く
して生まれしなり、今諸の傳記を案するに皆父
有りしと言ふ、而して父は皆黃帝の子孫なり、是
によれば傳記と詩説と何れか誤謬たること無きを
得むやと、褚先生曰く、然らず、詩には契は其の母
母が卵を呑みしによりて生まれ、后稷は其の母
母が人の趾を踐みたるによりて生まれしといへ
り、是れ此の二人が天命の精しき誠を承けて此
の世に生まれし所以の意あることを人々に見さ

むと欲してなり、鬼神は受命の人を世に降さむ
と欲するも自ら之を成すこと能はず、故に必ず
人を須ちて生ましむるなり、何ぞ父無くして生
まる、子あらむや、一方には父ありといひ、一方
には父無しといふ、信は以て信を傳へ、疑はしき
は以て疑はしきを傳ふ、故に兩ながら之を言ひ
傳へしなり、堯は契と后稷とが皆賢人にして天
命を承けて生まれしことを知れり、故に之を封
じぬ、即ち契は七十里に封ぜられ、其の後十餘世
にして湯に至りて天下に王たり、又堯は后稷の
子孫の後に王たらむとを知れり、故に之を百里
の地に益し封じたり、其の後世千歲ならむとし
て文王に至りて天下を有てり、詩傳に曰く、湯王
の先祖は契といふ、父無くして契を生めり、そは
母が其の姊妹と玄丘の水に浴せしとき、燕の卵
を銜みて墮すあり、契の母之を拾ひ取りて口に
含み、誤りて之を呑み、此より妊娠して遂に契を
生めり、契生まれて賢なり、堯立て、司徒と爲
し、之に姓を賜ひて子氏といふ、子とは茲なり、
茲とは益、大いなるの義なり、詩人よつて之をほ

めて曰く、殷の社稷は盛大なり、天玄鳥に命じて降して商の契を生めりと、商とは朴質なり、之を殷の國號と爲す、さて又文王の先祖は后稷といふ、后稷も亦父無くして生まれたり、后稷の母は姜嫄といふ、出でて神人の跡を見て、之を履みて妊娠せることを知り、其後后稷を生めり、姜嫄獨り思ふに父無くして生まれたる子といふを以て、賤みて之を道路に棄つ、しかるに羊牛の類之を避けて踐まず、之を山中に棄て置けば山樵之を養ふ、又之を大澤の中に捐つれば鳥來りて羽翼を以て之を覆ひ、之を食む、姜嫄之を不思議なりとなし、是に於て此の兒必ず天子たむと思ひ、之を取り上げて成長せしめけり、堯其の賢才を知り、立て、大農と爲し、之に姓を賜ひて姬氏といふ、姬とは本源なり、詩人之をほめて曰く、厥の初め民を生ずるや、深く修めて益、成せりと、而も后稷を道ふの始なり、孔子曰く、昔堯契を命じて子氏と爲し、は湯あらむが爲めなり、后稷を命じて姬氏と爲し、は文王あらむが爲めなり、大王の季歴に命じて世を嗣がしめむ

とせしは、天より下されたる聖瑞を明かにせむとなり、又太伯が父大王の意を曉りて吳に奔りて位を弟季歴に譲りしも、是れ天下生々の本源を遂げしめむが爲めなりきと、此の如く天命に關することは實に言ひ難し、聖人に非ずんば能く之を洞見すること莫し、さて舜も禹も契も后稷も皆黄帝の子孫なり、黄帝天命を策りて天下を治め、德澤後世にまで深く施せり、故に其の子孫皆復立ちて天子と爲れり、是れ天が有德者に報いしなり、然るに世人は此の理を知らずして此等の人々は悉く布衣匹夫より起りて帝王と爲りしものと思へり、夫れ布衣匹夫にして安ぞ能く故無くして起ちて天下に王たることあらむや、必ず其の祖先に有德者ありしなり、

【字解】張夫子、未詳なり、褚先生、名は少孫、潁川の人、仕へて元帝成帝の間に博士と爲れり、詩言、詩經商頌玄鳥と大雅生民との二篇の言なり、黄帝子、黄帝の子孫の意なり、契生於卵、詩の玄鳥に天命玄鳥、降而生商をいふ、后稷人迹、詩の生民に厥初生民、時維姜嫄、履帝武敏

歌、攸介攸止、載震載夙、載生載育、時維后稷をいふ、殷社芒芒、詩の玄鳥には社を土に作り句も亦前後せり、芒芒は大なる貌なり、大人蹟、大人は神人なり、蹟はあしあとなり、詩の帝武と同じ、抱之山中、抱は抱と通ず、棄なり、擲なり、すておくこと、山者、山樵なり、きこり、覆席、鳥の羽翼にておほひしくこと、大農、穀を掌るの官なり、即ち后稷なり、厥初生民云云、詩には此次に深修益成の句なきこと前に引けるが如し、恐らくは脱誤あらん、大王、文王の祖父なり、即ち古公亶父のこと、季歴、文王の父なり、即ち太伯の弟なり、天瑞、天より降されたる聖瑞なり、即ち文王の生れし時赤雀が丹書を銜みて其の産舎に止まりし奇瑞をいふ、太伯、大王の長子なり、生源、天下生々の本源なり、

其有天命、然黄帝後世何王天下之久遠邪、曰、傳云天下之君王爲萬夫之黔首、請贖民之命者、帝有福萬世、黃帝是也、五政明則修禮

義、因天時、舉兵征伐、利者王、有千世、蜀王黃帝後世也、至今在漢西南五千里、常來朝、輸獻於漢、非以其先之有德澤、流後世邪、行道德、豈可以忽乎哉、人君王者、舉而觀之、

【講義】其れ天命といふものあらむ、されど黃帝の後世は何ぞ天下に王たるの此の如く久しきやと、曰く、傳に云へり、天下の君王は萬の民の爲にせむとす、故に民の命を贖ひ救はむと請ふ者は帝たるなり、帝德は萬世の後まで其の福を傳ふ、是に當る者は黃帝なり、次に五常の政明なれば禮義を修め、天時に因りて兵を擧げ、征伐して國を利する者は王たるなり、王德は千世の後まで其の福を傳ふ、是に當る者は蜀王なり、蜀王は黃帝の後世なり、今に至るも漢の西南五千里の地に在りて、常に來朝して貢物を漢に輸送して獻す、是れ其の先祖の德澤ありて後世に流れ

布けるを以て此の如く久遠に王たるにあらざるや、故に道徳を行ふこと、何んと忽にして可ならむや、人の君王たる者は皆此の理を達観して民に徳を施さざるべからざるなり、

【字解】 傳、聖賢の言なり、萬夫之黔首、萬民といふに同じ、五政、五常の政なり、五常は父義・母慈・兄友・弟恭・子孝をいふ、蜀王黃帝後世也、蜀王本紀に朱提有男子杜宇、從天而下、自稱望帝、亦蜀王也、則杜姓出唐杜氏、蓋陸終氏之胤、亦黃帝之後也、とあり、又正義に曰く、譜記普云、蜀之先肇於人皇之際、黃帝與子昌意娶蜀山氏女、生帝偕、立封其支庶於蜀、歷虞夏商、周衰先稱王者蠶叢、國破子孫居姚雋等處、とあり、是にて蜀王の黃帝の後胤たること明なり、

漢大將軍霍子孟名光者、亦黃帝後世也、此可爲博聞遠見者言、固難爲淺聞者說也、何以言之、古諸侯以國爲姓、霍者國名也、武王封

る所あれども亦以て證と爲すべきものあればなり、即ち其の證とすべきことを左に記さむ、さて古の諸侯は國を以て姓となせり、霍とは國の名なり、周の武王は弟の叔處を霍に封せり、後世晉の獻公霍公を滅しぬ、其の子孫庶民と爲り、平陽に居れり、平陽は河東に在り、河東は晉の地なり、晉の韓魏趙に三分せらるゝや、河東は分れて魏國に屬せり、此にて霍氏の子孫の平陽に居れること明かなり、又其の祖先は周の後世たることも明かなり、されど詩を以ていへば、周は后稷より起れりといへども、后稷は父無くして生れたれば、黃帝と何等の縁無きものとなる、然れども、三代世傳を以ていへば、后稷は父あり、其の名を高辛といふ、高辛は黃帝の曾孫なりと、此にて霍氏は黃帝の後胤たること明かなり、さて又黃帝終始傳に豫言して曰へり、漢興りて百有餘年に、人ありて短からず長からず、白燕の郷より出で、天下の政を執り持つ、其の時に嬰兒の主あり、故に此の人權を擅にして帝命を遏め前ま

弟、叔處於霍、後世晉獻公滅霍公、後世爲庶民、往來居平陽、平陽在河東、河東晉地、分爲魏國、以詩言之、亦可爲周世、周起后稷、后稷無父而生、以三代世傳言之、后稷有父、名高辛、高辛黃帝曾孫、黃帝終始傳曰、漢興百有餘年、有人不短不長、出白燕之郷、持天下之政、時有嬰兒主、卻行車、霍將軍者本居平陽、白燕臣爲郎時、與方士考功會旗亭下、爲臣言、豈不偉哉、

【講義】 漢の大將軍霍子孟名は光と云ふ者も、亦黃帝の後世なり、此は博聞遠見者の爲めに言ふべくして、固より淺聞者の爲には説き難し、何を以て之を言ふとならば、其の世系明確ならざ

しめざること卻行の車の如しと、さて霍將軍は本平陽の白燕に居れり、此にて霍將軍の黃帝の後世たること明かなり、臣仕へて郎たりし時、方士の考功と旗亭の下に會ひ、臣の爲に此の黃帝終始傳のことを言へり、帝徳の福を萬世に傳ふること、豈に偉大ならずや、

【字解】 晉地分、晉の臣たる韓・魏・趙の三家が晉の地を三分して各、獨立せしことをいふ、所謂三晉となりしこと、黃帝終始傳、五行讖緯の説を説きたる書なり、嬰兒主、昭帝を指す、卻行車、後退の車なり、言は霍光政を執り權を擅にして帝命を遏めて前ましめざること、後退の車の如し、臣、褚先生自らを指す、考功、方士の名なり、旗亭、市中の酒樓なり、樓上に旗を掲ぐ、故に名とす、

十二諸侯年表第二

太史公讀春秋歷譜謀至周厲王未嘗不廢書而歎也曰嗚呼師摯見之矣紂爲象箸而箕子唏周道缺詩人本之衽席關雎作仁義陵遲鹿鳴刺焉及至厲王以惡聞其過公卿懼誅而禍作厲王遂奔於彘亂自京師始而共和行政焉

【講義】太史公、春秋歷譜謀を讀む毎に、周の厲王の記事に至りて、未だ一度も書をすて、歎息せざるこ
と無し、其の所以に曰く、嗚呼周道次第に衰微して鄭衛の淫聲作り、正樂廢れて節を失へり、是に於て樂官の師摯は之を見て已に其の亂を理めむとせり、昔し殷の紂王の象牙の箸を作りし時、箕子は之を以て國

家滅亡の兆なりとして之を憂ひ唏けり、周道の缺けむとするや、詩人は之を衽席寤寐の間に本づき、關雎の詩を作りて之を諷刺せり、又仁義の漸く衰へむとするや、詩人は賢者の幽隱するを憂ひ鹿鳴の詩を作りて之を風諫せり、是れ皆事の未だ甚しからざる前に之を防がむと欲せるなり、然るに厲王の代に至りては、其の過失を言はるゝを惡み、天下に令して謗誹を嚴禁す、是を以て道行く者は目を以て語り、公卿大臣は誅を懼れて上を諫めず、國人相與に畔きて厲王を襲ひ伐ち、王は遂に彘に出奔せざるべからざるに至れり、是れ皆王の自ら招く所にして、其の亂京師より始まり、而るに其の後周召の二公共和して政を行ひ、宣王を輔佐して文武成康の遺風に法りしかば、諸侯復び周に服するに至れり、

【字解】十二諸侯、篇名に十二と稱すれども、其實は十三なり、蓋し吳が最後に出でて其の事略したれば之を數へざりしならむ、春秋歷譜謀、春秋の年表なり、師摯、樂官の名なり、見之矣、正樂廢れ淫聲起れるを見て之を理めむとするをいふ、唏、歎聲なり、ナクと訓む、衽席、しとねなり、關雎作、關雎は詩經の篇

名なり、此に周道缺、關雎作とあるは恐らくは魯詩ならむ、即ち太史公は孔安國の弟子なり、安國は魯詩の直傳たればなり、故に儒林傳の序にも周室衰而關雎作とあり、又此他漢書杜欽傳に佩玉晏鳴、關雎歎之といひ、後漢書皇后紀の序に康王晚朝、關雎作諷といひ、楊賜傳に康王一朝晏起、關雎見幾而作といへり、此等の注皆魯詩となせり、故に之を解するには毛詩を以てすべからず、されど根本に於て誤れり、即ち關雎は正風の始にして變風に非ざること、史公も孔子世家に於て以關雎爲風始といへり、其の周道衰へて關雎作れりといふ説の出でたるは恐らくは漢儒が論語の關雎之亂を誤讀したるに由りしなるべし、陵遲、丘陵の次第に崩ること、轉じて物の漸次に衰ふること、鹿鳴刺、鹿鳴は詩經の篇名なり、是亦正雅にして變雅にあらず、而して之を刺詩となすは何に本さしか明かならず、唯文選の注に蔡邕の琴操を引きて鹿鳴者周大臣之所作也、王道衰、大臣知賢者幽隱、故彈弦風諫、とありといへり、

是後、或力政、彊乘弱、興師不請

天子然挾王室之義、以討伐爲會盟、主政由五伯、諸侯恣行淫侈、不軌、賊臣篡子滋起矣

【講義】是の後、諸侯或は兵力を以て政を行ひ、彊國は弱國を滅し、師を興すにも天子に請はざる者あり、然れども又王室の義を挾みて天子の討伐を以て名となし、會盟の主となる者あり、是に於て天下の政は五伯より出で、諸侯は各行を恣にし、淫れ侈りて法度に從はず、賊臣篡子益起るに至れり、

【字解】力政、兵力を以て政を行ふこと、五伯、五人の霸者なり、即ち齊の桓公、晉の文公、秦の穆公、宋の襄公、楚の莊王をいふ、不軌、軌は法度なり、法度に循はざるを不軌といふ、篡子、篡は奪ひ取るなり、父を殺して其の財を奪ひ取る子なり、滋、ますますなり、

齊・晉・秦・楚、其在成周、微甚、封或百里、或五十里、晉阻三河、齊負東海、楚介江淮、秦因雍州之固

四國迭興、更爲伯主、文武所褒、大封、皆威而服焉、是以孔子明王道、干七十餘君、莫能用、故西觀周室、論史記舊聞、興於魯、而次春秋、上記隱、下至哀之獲麟、約其辭文、去其煩重、以制義法、王道備、人事浹、七十子之徒、口受其傳、指爲有所刺譏、褒諱挹損之文辭、不可以書見也、

【講義】 齊・晉・秦・楚の四國は、周が洛陽に都せし時は其の微弱なること甚し、即ち其の封地或は百里、或は五十里なりき、且つ晉は三河を阻て、齊は東海を負ひ、楚は江淮の二水に挾まり、秦は西の方雍州の固めに因り、其の後四國迭に興りて更るく、伯主と爲り、文王武王の褒賜したる所の大封の諸侯も、皆之を

威して降服せしめたり、是を以て孔子は王道を明かにせむとて天下を周遊して七十餘君を干せども、能く用ひらるゝこと莫かりき、故に西の方周室を觀て、史官の記録及び舊聞を論じ、魯を本として春秋を述作し、上は隱公に始まり、下は哀公が西に狩りして麟を獲たるに至り、其の間の事跡の辭文を約め、其の煩しく重なりたるを去り、以て義法を制定せり、是に於て王道備はり、人事浹く明かとなれり、七十子の弟子は孔子より口づから其の傳の主旨を受けぬ、是れ其の傳中に於て上を刺譏たるもあり、褒めたるもあり、諱みたるもあり、又損益取捨する所の文辭もあり、明かに之を書して見るべからざるが爲めなり、

ふに同じ、

魯君子左丘明、懼弟子人人異端、各安其意、失其真、故因孔子史記、具論其語、成左氏春秋、

【講義】 魯の君子左丘明は弟子が各、口づから授かりしのみにては、人々其の主旨の端緒を異にし、又其の意のある所を平易に考へて何時しか其の眞意を失はむことを心配せり、故に孔子の史記に因りて其の其の口づから受けし語を論述して左氏春秋を作れり、

【字解】 君子、賢者のこと、孔子史記、即ち春秋なり、左氏春秋、今の春秋左氏傳なり、

鐸椒爲楚威王傅、爲王不能盡觀春秋、采取成敗、卒四十章、爲鐸氏微、

【講義】 鐸椒は楚の威王の傅たり、王が孔子の春秋

を盡く觀ると能はざるが爲に、其の成敗の微旨を採取して四十章を編み卒へて上る、之を鐸氏微といふ、趙孝成王時、其相虞卿、上采春秋、下觀近世、亦著八篇爲虞氏春秋、

【講義】 趙の孝成王の時に、其の相の虞卿といふ者、上は春秋に采り、下は近世の事跡を觀て亦八篇の書を著せり、之を虞氏春秋といふ、

呂不韋者、秦莊襄王相、亦上觀尚古、刪拾春秋、集六國時事、以爲八覽、六論、十二紀、爲呂氏春秋、及如荀卿、孟子、公孫固、韓非之徒、各往往摭摭春秋之文、以著書、不可勝紀、漢相張蒼、歷譜五德、上大夫董仲舒、推春秋義、

頗著文焉

【講義】 呂不韋は秦の莊襄王の相なり、亦上は上古の事跡を觀て春秋を刪り拾ひ、加ふるに六國の時の事を集めて、八覽・六論・十二紀を作りて呂氏春秋と爲せり、其の他荀卿・孟子・公孫固・韓非の徒の如きに至りては、各々春秋の文を拾ひ取りて書を著はせる者勝げて紀すべからず、漢の相の張蒼には歷譜五徳の篇あり、上大夫董仲舒は春秋の義を推して頗る文を著せり、即ち春秋繁露是れなり、

【字解】 尙古、上古なり、公孫固、索隱は宋に公孫固あれども著述なし、此は多分齊の韓固にして詩を傳へたる者ならむといへり、されど韓固は詩を傳へたれども春秋を傳へしことを聞かず、按ずるに漢書藝文志に公孫固一篇十八章あり、是れ齊の閔王の間に對して古今の成敗を陳べたる者なり、蓋し此の著者をいへるなるべし、

太史公曰、儒者斷其義、馳說者騁其辭、不務綜其終始、歷人取

其年月、數家隆於神運、譜謀獨記世諡、其辭略、欲一觀諸要、難於是譜、十二諸侯、自共和訖孔子、表見春秋、國語、學者所譏、盛衰大指、著于篇、爲成學治古文者要刪焉、

【講義】 太史公曰く、凡そ春秋を治むる者、儒者は其の義に重きを置きて之を斷定し、游說者は其の辭に奔りて其の終始を綜ぶることを務めず、歷を作る者は唯其の年月を取りて之を審かにし、陰陽・術數家は鬼神の靈妙と五行の運行とに留意すること隆なり、譜謀を作る者は唯其の世代諡號を記すのみにして其の辭簡略なり、故に各得る所あり、又遺す所ありて諸の要點を一覽の下に觀むと欲すれども難し、是に於て十二諸侯を表に布きて、共和より孔子の卒するまで、春秋國語及び學者の譏る所の盛衰興亡の大指を表見して此の篇に著せり、是れ本學を成すの人

古文を治むるの士の爲に其の要を覽せしめむとす、故に刪りて此の篇を爲れり、

るなり、歷人、曆家なり、數家、陰陽術數家なり、神運、鬼神の靈妙五行の運行なり、

庚申	共和元年 以宣王 少大行 共和	真公 武公 靖侯 宣白 秦仲 熊勇 蓋公 蓋侯 幽公 武侯 夷伯	周	魯	齊	晉	秦	楚	宋	衛	陳	蔡	曹	鄭	燕	吳
宣王	宣王	宣王	宣王	宣王	宣王	宣王	宣王	宣王	宣王	宣王	宣王	宣王	宣王	宣王	宣王	宣王
十六	十一	五	八	十九	十五	十	九	二十	十六	十六	二十五	二十五	二十六	二十七	二十六	二十五
三	十二	二	六	三	四	七	九	二十	十六	十六	二十五	二十五	二十六	二十七	二十六	二十五
四	十三	三	七	四	五	八	十	二十一	十七	十七	二十六	二十六	二十七	二十七	二十六	二十五
五	十四	四	八	五	六	九	十一	二十二	十八	十八	二十七	二十七	二十八	二十八	二十七	二十六
六	十五	五	九	六	七	十	十二	二十三	十九	十九	二十八	二十八	二十九	二十九	二十八	二十七
七	十六	六	十	七	八	十一	十三	二十四	二十	二十	二十九	二十九	三十	三十	二十九	二十八
八	十七	七	十一	八	九	十二	十四	二十五	二十一	二十一	三十	三十	三十一	三十一	三十	二十九
九	十八	八	十二	九	十	十三	十五	二十六	二十二	二十二	三十一	三十一	三十二	三十二	三十一	三十
二十	十九	九	十三	十	十一	十四	十六	二十七	二十三	二十三	三十二	三十二	三十三	三十三	三十二	三十
二十一	二十	十	十四	十一	十二	十五	十七	二十八	二十四	二十四	三十三	三十三	三十四	三十四	三十三	三十二
二十二	二十一	十一	十五	十二	十三	十六	十八	二十九	二十五	二十五	三十四	三十四	三十五	三十五	三十四	三十三
二十三	二十二	十二	十六	十三	十四	十七	十九	三十	二十六	二十六	三十五	三十五	三十六	三十六	三十五	三十四
二十四	二十三	十三	十七	十四	十五	十八	二十	三十一	二十七	二十七	三十六	三十六	三十七	三十七	三十六	三十五
二十五	二十四	十四	十八	十五	十六	十九	二十一	三十二	二十八	二十八	三十七	三十七	三十八	三十八	三十七	三十六
二十六	二十五	十五	十九	十六	十七	二十	二十二	三十三	二十九	二十九	三十八	三十八	三十九	三十九	三十八	三十七
二十七	二十六	十六	二十	十七	十八	二十一	二十三	三十四	三十	三十	三十九	三十九	四十	四十	三十九	三十八
二十八	二十七	十七	二十一	十八	十九	二十二	二十四	三十五	三十一	三十一	四十	四十	四十一	四十一	四十	三十九
二十九	二十八	十八	二十二	十九	二十	二十三	二十五	三十六	三十二	三十二	四十一	四十一	四十二	四十二	四十一	四十
三十	二十九	十九	二十三	二十	二十一	二十四	二十六	三十七	三十三	三十三	四十二	四十二	四十三	四十三	四十二	四十
三十一	三十	二十	二十四	二十一	二十二	二十五	二十七	三十八	三十四	三十四	四十三	四十三	四十四	四十四	四十三	四十二
三十二	三十一	二十一	二十五	二十二	二十三	二十六	二十八	三十九	三十五	三十五	四十四	四十四	四十五	四十五	四十四	四十三

十	九	八	七	六	五	四	三	二	邑東年平	殺戎王幽	十	九	八
八	七	六	五	四	三	二	魯惠公弗	三十八	年元	所為	三十五	三十四	三十三
三十四	三十三	三十二	三十一	三十	二十九	二十八	湣元年	二十六	三十七	三十五	三十三	三十一	二十九
二十五	二十四	二十三	二十二	二十一	二十	十九	秦文公	十二	十一	二十四	二十二	二十	十八
三	二	元	楚霄敖	二十六	二十五	二十四	伐戎至	九	八	諸侯	十九	十八	十七
五	四	三	二	宋武公	三十四	三十三	空元年	九	八	帝時初	二十九	二十八	二十七
五十二	五十一	五十	四十九	四十八	四十七	四十六	四十五	四十四	四十三	帝時初	四十一	四十	三十九
十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十	九	八	帝時初	八	七	六
興元	四十八	四十七	四十六	四十五	四十四	四十三	四十二	四十一	四十	帝時初	三十九	三十八	三十七
三十五	三十四	三十三	三十二	三十一	三十	二十九	二十八	二十七	二十六	帝時初	二十五	二十四	二十三
女取	九	八	七	六	五	四	三	二	元	所故以	三十五	三十四	三十三
四	三	二	元	燕鄭侯	元	元	元	元	元	所故以	十九	十八	十七

甲午	二十四	二十二	四十八	三十四	十九	十一	宋宣公	十一	八	三	十	二十四	十八
	二十三	二十一	四十七	三十三	十八	十	力元	十	七	二	九	二十三	十七
	二十二	二十	四十六	三十二	十七	九	公母	九	六	論	八	二十二	十六
	二十一	十九	四十五	三十一	十六	八	生魯桓	八	五	蔡宣侯	七	二十一	十五
	二十	十八	四十四	三十	十五	七	公	七	四	元	六	二十	十四
	十九	十七	四十三	二十九	十四	六	陳元公	六	三	蔡宣侯	五	十九	十三
	十八	十六	四十二	二十八	十三	五	生桓公	五	二	論	四	十八	十二
	十七	十五	四十一	二十七	十二	四	鮑桓公	四	一	蔡宣侯	三	十七	十一
	十六	十四	四十	二十六	十一	三	他桓公	三	二	論	二	十六	十
	十五	十三	三十九	二十五	十	二	鮑桓公	二	一	論	一	十五	九
甲申	十四	十二	三十八	二十四	九	元	鮑桓公	九	八	元	三	十四	七
	十三	十一	三十七	二十三	八	七	鮑桓公	八	七	元	二	十三	六
	十二	十	三十六	二十二	七	六	鮑桓公	七	六	元	一	十二	五
	十一	九	三十五	二十一	六	五	鮑桓公	六	五	元	零	十一	四
	十	八	三十四	二十	五	四	鮑桓公	五	四	元	九	十	三
	九	七	三十三	十九	四	三	鮑桓公	四	三	元	八	九	二
	八	六	三十二	十八	三	二	鮑桓公	三	二	元	七	八	一
	七	五	三十一	十七	二	一	鮑桓公	二	一	元	六	七	零
	六	四	三十	十六	一	零	鮑桓公	一	零	元	五	六	九
	五	三	二十九	十五	零	九	鮑桓公	零	九	元	四	五	八
	四	二	二十八	十四	九	八	鮑桓公	九	八	元	三	四	七
	三	一	二十七	十三	八	七	鮑桓公	八	七	元	二	三	六
	二	零	二十六	十二	七	六	鮑桓公	七	六	元	一	二	五
	一	九	二十五	十一	六	五	鮑桓公	六	五	元	零	一	四
	零	八	二十四	十	五	四	鮑桓公	五	四	元	九	零	三
	九	七	二十三	九	四	三	鮑桓公	四	三	元	八	九	二
	八	六	二十二	八	三	二	鮑桓公	三	二	元	七	八	一
	七	五	二十一	七	二	一	鮑桓公	二	一	元	六	七	零
	六	四	二十	六	零	九	鮑桓公	一	零	元	五	六	九
	五	三	十九	五	九	八	鮑桓公	零	九	元	四	五	八
	四	二	十八	四	八	七	鮑桓公	九	八	元	三	四	七
	三	一	十七	三	七	六	鮑桓公	八	七	元	二	三	六
	二	零	十六	二	六	五	鮑桓公	七	六	元	一	二	五
	一	九	十五	一	五	四	鮑桓公	六	五	元	零	一	四
	零	八	十四	零	四	三	鮑桓公	五	四	元	九	零	三
	九	七	十三	九	三	二	鮑桓公	四	三	元	八	九	二
	八	六	十二	八	二	一	鮑桓公	三	二	元	七	八	一
	七	五	十一	七	一	零	鮑桓公	二	一	元	六	七	零
	六	四	十	六	零	九	鮑桓公	一	零	元	五	六	九
	五	三	九	五	九	八	鮑桓公	零	九	元	四	五	八
	四	二	八	四	八	七	鮑桓公	九	八	元	三	四	七
	三	一	七	三	七	六	鮑桓公	八	七	元	二	三	六
	二	零	六	二	六	五	鮑桓公	七	六	元	一	二	五
	一	九	五	一	五	四	鮑桓公	六	五	元	零	一	四
	零	八	四	零	四	三	鮑桓公	五	四	元	九	零	三
	九	七	三	九	三	二	鮑桓公	四	三	元	八	九	二
	八	六	二	八	二	一	鮑桓公	三	二	元	七	八	一
	七	五	一	七	一	零	鮑桓公	二	一	元	六	七	零
	六	四	零	六	零	九	鮑桓公	一	零	元	五	六	九
	五	三	九	五	九	八	鮑桓公	零	九	元	四	五	八
	四	二	八	四	八	七	鮑桓公	九	八	元	三	四	七
	三	一	七	三	七	六	鮑桓公	八	七	元	二	三	六
	二	零	六	二	六	五	鮑桓公	七	六	元	一	二	五
	一	九	五	一	五	四	鮑桓公	六	五	元	零	一	四
	零	八	四	零	四	三	鮑桓公	五	四	元	九	零	三
	九	七	三	九	三	二	鮑桓公	四	三	元	八	九	二
	八	六	二	八	二	一	鮑桓公	三	二	元	七	八	一
	七	五	一	七	一	零	鮑桓公	二	一	元	六	七	零
	六	四	零	六	零	九	鮑桓公	一	零	元	五	六	九
	五	三	九	五	九	八	鮑桓公	零	九	元	四	五	八
	四	二	八	四	八	七	鮑桓公	九	八	元	三	四	七
	三	一	七	三	七	六	鮑桓公	八	七	元	二	三	六
	二	零	六	二	六	五	鮑桓公	七	六	元	一	二	五
	一	九	五	一	五	四	鮑桓公	六	五	元	零	一	四
	零	八	四	零	四	三	鮑桓公	五	四	元	九	零	三
	九	七	三	九	三	二	鮑桓公	四	三	元	八	九	二
	八	六	二	八	二	一	鮑桓公	三	二	元	七	八	一
	七	五	一	七	一	零	鮑桓公	二	一	元	六	七	零
	六	四	零	六	零	九	鮑桓公	一	零	元	五	六	九
	五	三	九	五	九	八	鮑桓公	零	九	元	四	五	八
	四	二	八	四	八	七	鮑桓公	九	八	元	三	四	七
	三	一	七	三	七	六	鮑桓公	八	七	元	二	三	六
	二	零	六	二	六	五	鮑桓公	七	六	元	一	二	五
	一	九	五	一	五	四	鮑桓公	六	五	元	零	一	四
	零	八	四	零	四	三	鮑桓公	五	四	元	九	零	三
	九	七	三	九	三	二	鮑桓公	四	三	元	八	九	二
	八	六	二	八	二	一	鮑桓公	三	二	元	七	八	一
	七	五	一	七	一	零	鮑桓公	二	一	元	六	七	零
	六	四	零	六	零	九	鮑桓公	一	零	元	五	六	九
	五	三	九	五	九	八	鮑桓公	零	九	元	四	五	八
	四	二	八	四	八	七	鮑桓公	九	八	元	三	四	七
	三	一	七	三	七	六	鮑桓公	八	七	元	二	三	六
	二	零	六	二	六	五	鮑桓公	七	六	元	一	二	五
	一	九	五	一	五	四	鮑桓公	六	五	元	零	一	四
	零	八	四	零	四	三	鮑桓公	五	四	元	九	零	三
	九	七	三	九	三	二	鮑桓公	四	三	元	八	九	二
	八	六	二	八	二	一	鮑桓公	三	二	元	七	八	一
	七	五	一	七	一	零	鮑桓公	二	一	元	六	七	零
	六	四	零	六	零	九	鮑桓公	一	零	元	五	六	九
	五	三	九	五	九	八	鮑桓公	零	九	元	四	五	八
	四	二	八	四	八	七	鮑桓公	九	八	元	三	四	七
	三	一	七	三	七	六	鮑桓公	八	七	元	二	三	六
	二	零	六	二	六	五	鮑桓公	七	六	元	一	二	五
	一	九	五	一	五	四	鮑桓公	六	五	元	零	一	四
	零	八	四	零	四	三	鮑桓公	五	四	元	九	零	三
	九	七	三	九	三	二	鮑桓公	四	三	元	八	九	二
	八	六	二	八	二	一	鮑桓公	三	二	元	七	八	一
	七	五	一	七	一	零	鮑桓公	二	一	元	六	七	零
	六	四	零	六	零	九	鮑桓公	一	零	元	五	六	九
	五	三	九	五	九	八	鮑桓公	零	九	元	四	五	八
	四	二	八	四	八	七	鮑桓公	九	八	元	三	四	七
	三	一	七	三	七	六	鮑桓公	八	七	元	二	三	六
	二	零	六	二	六	五	鮑桓公	七	六	元	一	二	五
	一	九	五	一	五	四	鮑桓公	六	五	元	零	一	四
	零	八	四	零	四	三	鮑桓公	五	四	元	九	零	三
	九	七	三	九	三	二	鮑桓公	四	三	元	八	九	二
	八	六	二	八	二	一	鮑桓公	三	二	元	七	八	一
	七	五	一	七	一	零	鮑桓公	二	一	元	六	七	零
	六	四	零	六	零	九	鮑桓公	一	零	元	五	六	九
	五	三	九	五	九	八	鮑桓公	零	九	元	四	五	八
	四	二	八	四	八	七	鮑桓公	九	八	元	三	四	七
	三	一	七	三	七	六	鮑桓公	八	七	元	二	三	六
	二	零	六	二	六	五	鮑桓公	七	六	元	一	二	五
	一	九	五	一	五	四	鮑桓公	六	五	元	零	一	四
	零	八	四	零	四	三	鮑桓公	五	四	元	九	零	三
	九	七	三	九	三	二	鮑桓公	四	三	元	八	九	二
	八	六	二	八	二	一	鮑桓公	三	二	元	七	八	一
	七	五	一	七	一	零	鮑桓公	二	一	元	六	七	零
	六	四	零	六	零	九	鮑桓公	一	零	元	五	六	九
	五	三	九	五	九	八	鮑桓公	零	九	元	四	五	八
	四	二	八	四	八	七	鮑桓公	九	八	元	三	四	七
	三	一	七	三	七	六	鮑桓公	八	七	元	二	三	六
	二	零	六</										

二十五	二十三	四十九	三十五	二十	十二	二	十二	九	四	十一	二十五	十九
二十六	二十四	五十	三十一	十三	三	十二	十三	五	十二	二十六	二十	
二十七	二十五	五十一	二十二	十四	四	十四	十四	六	十三	二十七	二十一	
二十八	二十六	五十二	二十三	十五	五	十五	十五	七	十四	二十八	二十二	
二十九	二十七	五十三	二十四	十六	六	十六	十六	八	十五	二十九	二十三	
三十	二十八	五十四	二十五	十七	七	十七	十七	九	十六	三十	二十四	
三十一	二十九	五十五	二十六	十八	八	十八	十八	十	十七	三十一	二十五	
三十二	三十	五十六	二十七	十九	九	十九	十九	十一	十八	三十二	二十六	
三十三	三十一	五十七	二十八	二十	十	二十	二十	十二	十九	三十三	二十七	
三十四	三十二	五十八	二十九	二十一	十一	二十一	二十一	十三	二十	三十四	二十八	
三十五	三十三	五十九	三十	二十二	十二	二十二	二十二	十四	二十一	三十五	二十九	
三十六	三十四	六十	三十一	二十三	十三	二十三	二十三	十五	二十二	三十六	三十	
三十七	三十五	六十一	三十二	二十四	十四	二十四	二十四	十六	二十三	三十七	三十一	
三十八	三十六	六十二	三十三	二十五	十五	二十五	二十五	十七	二十四	三十八	三十二	
三十九	三十七	六十三	三十四	二十六	十六	二十六	二十六	十八	二十五	三十九	三十三	
四十	三十八	六十四	三十五	二十七	十七	二十七	二十七	十九	二十六	四十	三十四	
四十一	三十九	六十五	三十六	二十八	十八	二十八	二十八	二十	二十七	四十一	三十五	
四十二	四十	六十六	三十七	二十九	十九	二十九	二十九	二十一	二十八	四十二	三十六	
四十三	四十一	六十七	三十八	三十	二十	三十	三十	二十二	二十九	四十三	三十七	
四十四	四十二	六十八	三十九	三十一	二十一	三十一	三十一	二十三	三十	四十四	三十八	
四十五	四十三	六十九	三十二	三十二	二十二	三十二	三十二	二十四	三十一	四十五	三十九	
四十六	四十四	七十	三十三	三十三	二十三	三十三	三十三	二十五	三十二	四十六	四十	
四十七	四十五	七十一	三十四	三十四	二十四	三十四	三十四	二十六	三十三	四十七	四十一	
四十八	四十六	七十二	三十五	三十五	二十五	三十五	三十五	二十七	三十四	四十八	四十二	
四十九	四十七	七十三	三十六	三十六	二十六	三十六	三十六	二十八	三十五	四十九	四十三	
五十	四十八	七十四	三十七	三十七	二十七	三十七	三十七	二十九	三十六	五十	四十四	
五十一	四十九	七十五	三十八	三十八	二十八	三十八	三十八	三十	三十七	五十一	四十五	
五十二	五十	七十六	三十九	三十九	二十九	三十九	三十九	三十一	三十八	五十二	四十六	
五十三	五十一	七十七	四十	四十	三十	四十	四十	三十二	三十九	五十三	四十七	
五十四	五十二	七十八	四十一	四十一	三十一	四十一	四十一	三十三	四十	五十四	四十八	
五十五	五十三	七十九	四十二	四十二	三十二	四十二	四十二	三十四	四十一	五十五	四十九	
五十六	五十四	八十	四十三	四十三	三十三	四十三	四十三	三十五	四十二	五十六	五十	
五十七	五十五	八十一	四十四	四十四	三十四	四十四	四十四	三十六	四十三	五十七	五十一	
五十八	五十六	八十二	四十五	四十五	三十五	四十五	四十五	三十七	四十四	五十八	五十二	
五十九	五十七	八十三	四十六	四十六	三十六	四十六	四十六	三十八	四十五	五十九	五十三	
六十	五十八	八十四	四十七	四十七	三十七	四十七	四十七	三十九	四十六	六十	五十四	
六十一	五十九	八十五	四十八	四十八	三十八	四十八	四十八	四十	四十七	六十一	五十五	
六十二	六十	八十六	四十九	四十九	三十九	四十九	四十九	四十一	四十八	六十二	五十六	
六十三	六十一	八十七	五十	五十	四十	五十	五十	四十二	四十九	六十三	五十七	
六十四	六十二	八十八	五十一	五十一	四十一	五十一	五十一	四十三	五十	六十四	五十八	
六十五	六十三	八十九	五十二	五十二	四十二	五十二	五十二	四十四	五十一	六十五	五十九	
六十六	六十四	九十	五十三	五十三	四十三	五十三	五十三	四十五	五十二	六十六	六十	
六十七	六十五	九十一	五十四	五十四	四十四	五十四	五十四	四十六	五十三	六十七	六十一	
六十八	六十六	九十二	五十五	五十五	四十五	五十五	五十五	四十七	五十四	六十八	六十二	
六十九	六十七	九十三	五十六	五十六	四十六	五十六	五十六	四十八	五十五	六十九	六十三	
七十	六十八	九十四	五十七	五十七	四十七	五十七	五十七	四十九	五十六	七十	六十四	
七十一	六十九	九十五	五十八	五十八	四十八	五十八	五十八	五十	五十七	七十一	六十五	
七十二	七十	九十六	五十九	五十九	四十九	五十九	五十九	五十一	五十八	七十二	六十六	
七十三	七十一	九十七	六十	六十	五十	六十	六十	五十二	五十九	七十三	六十七	
七十四	七十二	九十八	六十一	六十一	五十一	六十一	六十一	五十三	六十	七十四	六十八	
七十五	七十三	九十九	六十二	六十二	五十二	六十二	六十二	五十四	六十一	七十五	六十九	
七十六	七十四	一百	六十三	六十三	五十三	六十三	六十三	五十五	六十二	七十六	七十	
七十七	七十五	一百零一	六十四	六十四	五十四	六十四	六十四	五十六	六十三	七十七	七十一	
七十八	七十六	一百零二	六十五	六十五	五十五	六十五	六十五	五十七	六十四	七十八	七十二	
七十九	七十七	一百零三	六十六	六十六	五十六	六十六	六十六	五十八	六十五	七十九	七十三	
八十	七十八	一百零四	六十七	六十七	五十七	六十七	六十七	六十	六十六	八十	七十四	
八十一	七十九	一百零五	六十八	六十八	五十八	六十八	六十八	六十一	六十七	八十一	七十五	
八十二	八十	一百零六	六十九	六十九	五十九	六十九	六十九	六十二	六十八	八十二	七十六	
八十三	八十一	一百零七	七十	七十	六十	七十	七十	六十三	六十九	八十三	七十七	
八十四	八十二	一百零八	七十一	七十一	六十一	七十一	七十一	六十四	七十	八十四	七十八	
八十五	八十三	一百零九	七十二	七十二	六十二	七十二	七十二	六十五	七十一	八十五	七十九	
八十六	八十四	一百一十	七十三	七十三	六十三	七十三	七十三	六十六	七十二	八十六	八十	
八十七	八十五	一百一十一	七十四	七十四	六十四	七十四	七十四	六十七	七十二	八十七	八十一	
八十八	八十六	一百一十二	七十五	七十五	六十五	七十五	七十五	六十八	七十三	八十八	八十二	
八十九	八十七	一百一十三	七十六	七十六	六十六	七十六	七十六	七十	七十四	八十九	八十三	
九十	八十八	一百一十四	七十七	七十七	六十七	七十七	七十七	七十二	七十五	九十	八十四	
九十一	八十九	一百一十五	七十八	七十八	六十八	七十八	七十八	七十三	七十六	九十一	八十五	
九十二	九十	一百一十六	七十九	七十九	六十九	七十九	七十九	七十四	七十七	九十二	八十六	
九十三	九十一	一百一十七	八十	八十	七十	八十	八十	七十五	七十八	九十三	八十七	
九十四	九十二	一百一十八	八十一	八十一	七十一	八十一	八十一	七十六	七十九	九十四	八十八	
九十五	九十三	一百一十九	八十二	八十二	七十二	八十二	八十二	七十七	八十	九十五	八十九	
九十六	九十四	一百二十	八十三	八十三	七十三	八十三	八十三	七十八	八十一	九十六	九十	
九十七	九十五	一百二十一	八十四	八十四	七十四	八十四	八十四	七十九	八十二	九十七	九十一	
九十八	九十六	一百二十二	八十五	八十五	七十五	八十五	八十五	八十	八十三	九十八	九十二	
九十九	九十七	一百二十三	八十六	八十六	七十六	八十六	八十六	八十一	八十四	九十九	九十三	
一百	九十八	一百二十四	八十七	八十七	七十七	八十七	八十七	八十二	八十五	一百	九十四	
一百零一	九十九	一百二十五	八十八	八十八	七十八	八十八	八十八	八十三	八十六	一百零一	九十五	
一百零二	一百	一百二十六	八十九	八十九	七十九	八十九	八十九	八十四	八十七	一百零二	九十六	
一百零三	一百零一	一百二十七	九十	九十	八十	九十	九十	八十五	八十八	一百零三	九十七	
一百零四	一百零二	一百二十八	九十一	九十一	八十一	九十一	九十一	八十六	八十九	一百零四	九十八	
一百零五	一百零三	一百二十九	九十二	九十二	八十二	九十二	九十二	八十七	九十	一百零五	九十九	
一百零六	一百零四	一百三十	九十三	九十三	八十三	九十三	九十三	八十八	九十一	一百零六	一百	
一百零七	一百零五	一百三十一	九十四	九十四	八十四	九十四	九十四	八十九	九十二	一百零七	一百零一	
一百零八	一百零六	一百三十二	九十五	九十五	八十五	九十五	九十五	九十	九十三	一百零八	一百零二	
一百零九	一百零七	一百三十三	九十六	九十六	八十六	九十六	九十六	九十一	九十四	一百零九	一百零三	
一百一十	一百零八	一百三十四	九十七	九十七	八十七	九十七	九十七	九十二	九十五	一百一十	一百零四	
一百一十一	一百零九	一百三十五	九十八	九十八	八十八	九十八	九十八	九十三	九十六	一百一十一	一百零五	
一百一十二	一百一十	一百三十六	九十九	九十九	八十九	九十九	九十九	九十四	九十七	一百一十二	一百零六	
一百一十三	一百一十一	一百三十七	一百	一百	九十	一百	一百	九十五	九十八	一百一十三	一百零七	
一百一十四	一百一十二	一百三十八	一百零一	一百零一	九十一	一百零一	一百零一	九十六	九十九	一百一十四	一百零八	
一百一十五	一百一十三	一百三十九	一百零二	一百零二	九十二	一百零二	一百零二	九十七	一百	一百一十五	一百零九	
一百一十六	一百一十四	一百四十	一百零三	一百零三	九十三	一百零三	一百零三	九十八	一百零一	一百一十六	一百一十	
一百一十七	一百一十五	一百四十一	一百零四	一百零四	九十四	一百零四	一百零四	九十九	一百零二	一百一十七	一百一十一	
一百一十八	一百一十六	一百四十二	一百零五	一百零五	九十五	一百零五	一百零五	一百	一百零三	一百一十八	一百一十二	
一百一十九	一百一十七	一百四十三	一百零六	一百零六	九十六	一百零六	一百零六	一百零一	一百零四	一百一十九	一百一十三	
一百二十	一百一十八	一百四十四	一百零七	一百零七	九十七	一百零七	一百零七	一百零二	一百零五	一百二十	一百一十四	
一百二十一	一百一十九	一百四十五	一百零八	一百零八	九十八	一百零八	一百零八	一百零三	一百零六	一百二十一	一百一十五	
一百二十二	一百二十	一百四十六	一百零九	一百零九	九十九	一百零九	一百零九	一百零四	一百零七	一百二十二	一百一十六	
一百二十三	一百二十一	一百四十七	一百一十	一百一十	一百	一百一十	一百一十	一百零五	一百零八	一百二十三	一百一十七	
一百二十四	一百二十二	一百四十八	一百一十一	一百一十一	一百零一	一百一十一	一百一十一	一百零六	一百零九	一百二十四	一百一十八	
一百二十五	一百二十三	一百四十九	一百一十二	一百一十二	一百零二	一百一十二	一百一十二	一百零七	一百一十	一百二十五	一百一十九	
一百二十六	一百二十四	一百五十	一百一十三	一百一十三	一百零三	一百一十三	一百一十三	一百零八	一百一十一	一百二十六	一百二十	
一百二十七	一百二十五	一百五十一	一百一十四	一百一十四	一百零四	一百一十四	一百一十四	一百零九	一百一十二	一百二十七	一百二十一	
一百二十八	一百二十六	一百五十二	一百一十五	一百一十五	一百零五	一百一十五	一百一十五	一百一十	一百一十三	一百二十八	一百二十二	
一百二十九	一百二十七	一百五十三	一百一十六	一百一十六	一百零六	一百一十六	一百一十六	一百一十一	一百一十四	一百二十九	一百二十三	
一百三十	一百二十八	一百五十四	一百一十七	一百一十七	一百零七	一百一十七	一百一十七	一百一十二	一百一十五	一百三十	一百二十四	
一百三十一	一百二十九	一百五十五	一百一十八	一百一十八	一百零八	一百一十八	一百一十八	一百一十三	一百一十六	一百三十一	一百二十五	
一百三十二	一百三十	一百五十六	一百一十九	一百一十九	一百零九	一百一十九	一百一十九	一百一十四	一百一十七	一百三十二	一百二十六	
一百三十三	一百三十一	一百五十七	一百二十	一百二十	一百一十	一百二十	一百二十	一百一十五	一百一十八	一百三十三	一百二十七	
一百三十四	一百三十二	一百五十八	一百二十一	一百二十一	一百一十一	一百二十一	一百二十一	一百一十六	一百一十九	一百三十四	一百二十八	
一百三十五	一百三十三	一百五十九	一百二十二	一百二十二	一百一十二	一百二十二	一百二十二	一百一十七	一百二十	一百三十五	一百二十九	
一百三十六	一百三十四	一百六十	一百二十三	一百二十三	一百一十三	一百二十三	一百二十三	一百一十八	一百二十一	一百三十六	一百三十	
一百三十七	一百三十五	一百六十一	一百二十四	一百二十四	一百一十四	一百二十四	一百二十四	一百一十九	一百二十二	一百三十七	一百三十一	
一百三十八	一百三十六	一百六十二	一百二十五	一百二十五	一百一十五	一百二十五	一百二十五	一百二十	一百二十三	一百三十八	一百三十二	
一百三十九	一百三十七	一百六十三	一百二十六	一百二十六	一百一十六	一百二十六	一百二十六	一百二十一	一百二十四	一百三十九	一百三十三	
一百四十	一百三十八	一百六十四	一百二十七	一百二十七	一百一十七	一百二十七	一百二十七	一百二十二	一百二十五	一百四十	一百三十四	
一百四十一	一百三十九	一百六十五	一百二十八	一百二十八	一百一十八	一百二十八	一百二十八	一百二十三	一百二十六	一百四十一	一百三十五	
一百四十二	一百四十	一百六十六	一百二十九	一百二十九	一百一十九	一百二十九	一百二十九	一百二十四	一百二十七	一百四十二	一百三十六	
一百四十三	一百四十一	一百六十七	一百三十	一百三十	一百二十	一百三十	一百三十	一百二十五	一百二十八	一百四十三	一百三十七	
一百四十四	一百四十二	一百六十八	一百三十一	一百三十一	一百二十一	一百三十一	一百三十一	一百二十六	一百二十九	一百四十四	一百三十八	
一百四十五	一百四十三	一百六十九	一百三十二	一百三十二	一百二十二	一百三十二	一百三十二	一百二十七	一百三十	一百四十五	一百三十九	
一百四十六	一百四十四	一百七十	一百三十三	一百三十三	一百二十三	一百三十三	一百三十三	一百二十八	一百三十一	一百四十六	一百四十	
一百四十七	一百四十五	一百七十一	一百三十四	一百三十四	一百二十四	一百三十四	一百三十四	一百二十九	一百三十二	一百四十七	一百四十一	
一百四十八	一百四十六	一百七十二	一百三十五	一百三十五	一百二十五	一百三十五	一百三十五	一百三十	一百三十三	一百四十八	一百四十二	
一百四十九	一百四十七	一百七十三	一百三十六	一百三十六	一百二十六	一百三十六	一百三十六	一百三十一	一百三十四	一百四十九	一百四十三	
一百五十	一百四十八	一百七十四	一百三十七	一百三十七	一百二十七	一百三十六	一百三十六	一百三十二	一百三十五	一百五十	一百四十四	
一百五十一	一百四十九	一百七十五	一百三十八	一百三十八	一百二十八	一百三十七	一百三十七	一百三十三	一百三十六	一百五十一	一百四十五	
一百五十二	一百五十	一百七十六	一百三十九	一百三十九	一百二十九	一百三十八	一百三十八	一百三十四	一百三十七	一百五十二	一百四十六	
一百五十三	一百五十一	一百七十七	一百四十	一百四十	一百三十	一百三十九	一百三十九	一百三十五	一百三十八	一百五十三	一百四十七	
一百五十四	一百五十二	一百七十八	一百四十一	一百四十一	一百三十一	一百四十	一百四十	一百三十六	一百三十九	一百五十四	一百四十八	
一百五十五	一百五十三	一百七十九	一百四十二	一百四十二	一百三十二	一百四十一	一百四十一	一百三十七	一百四十	一百五十五	一百四十九	
一百五十六	一百五十四	一百八十	一百四十三	一百四十三	一百三十三	一百四十二	一百四十二	一百三十八	一百四十一	一百五十六	一百五十	
一百五十七	一百五十五	一百八十一	一百四十四	一百四十四	一百三十四	一百四十三	一百四十三	一百三十九	一百四十二	一百五十七	一百五十一	
一百五十八	一百五十六	一百八十二	一百四十五	一百四十五	一百三十五	一百四十四	一百四十四	一百四十	一百四十三	一百五十八	一百五十二	
一百五十九	一百五十七	一百八十三	一百四十六	一百四十六	一百三十六	一百四十五	一百四十五	一百四十一	一百四十四	一百五十九	一百五十三	
一百六十	一百五十八	一百八十四	一百四十七	一百四十七	一百三十七	一百四十六	一百四十六	一百四十二	一百四十五	一百六十	一百五十四	
一百六十一	一百五十九	一百八										

									九
									魯桓公 允元年 母宋武 公女生 手文爲 魯夫人
									二十
									二十一
									二十二
									二十三
									二十四
									二十五
									二十六
									二十七
									二十八
									二十九
									三十
									三十一
									三十二
									三十三
									三十四
									三十五
									三十六
									三十七
									三十八
									三十九
									四十
									四十一
									四十二
									四十三
									四十四
									四十五
									四十六
									四十七
									四十八
									四十九
									五十
									五十一
									五十二
									五十三
									五十四
									五十五
									五十六
									五十七
									五十八
									五十九
									六十
									六十一
									六十二
									六十三
									六十四
									六十五
									六十六
									六十七
									六十八
									六十九
									七十
									七十一
									七十二
									七十三
									七十四
									七十五
									七十六
									七十七
									七十八
									七十九
									八十
									八十一
									八十二
									八十三
									八十四
									八十五
									八十六
									八十七
									八十八
									八十九
									九十
									九十一
									九十二
									九十三
									九十四
									九十五
									九十六
									九十七
									九十八
									九十九
									一百

									十五
									十六
									十七
									十八
									十九
									二十
									二十一
									二十二
									二十三
									二十四
									二十五
									二十六
									二十七
									二十八
									二十九
									三十
									三十一
									三十二
									三十三
									三十四
									三十五
									三十六
									三十七
									三十八
									三十九
									四十
									四十一
									四十二
									四十三
									四十四
									四十五
									四十六
									四十七
									四十八
									四十九
									五十
									五十一
									五十二
									五十三
									五十四
									五十五
									五十六
									五十七
									五十八
									五十九
									六十
									六十一
									六十二
									六十三
									六十四
									六十五
									六十六
									六十七
									六十八
									六十九
									七十
									七十一
									七十二
									七十三
									七十四
									七十五
									七十六
									七十七
									七十八
									七十九
									八十
									八十一
									八十二
									八十三
									八十四
									八十五
									八十六
									八十七
									八十八
									八十九
									九十
									九十一
									九十二
									九十三
									九十四
									九十五
									九十六
									九十七
									九十八
									九十九
									一百

十一	二十八	二十九	二十一	十一	十	六	十六	三	二十七	九	五	七	二十五
十二	二十九	三十	二十二	十三	十二	七	十七	四	二十八	十	六	八	二十六
十三	三十	三十一	二十三	十四	十一	八	十八	五	二十九	九	七	九	二十七
十四	三十一	三十二	二十四	十五	十	九	十九	六	三十	十	八	十	二十八
十五	三十二	三十三	二十五	十六	九	十	二十	七	三十一	十一	九	十一	二十九
十六	三十三	三十四	二十六	十七	八	十一	二十一	八	三十二	十二	十	十二	三十
十七	三十四	三十五	二十七	十八	七	十二	二十二	九	三十三	十三	十一	十三	三十一
十八	三十五	三十六	二十八	十九	六	十三	二十三	十	三十四	十四	十二	十四	三十二
十九	三十六	三十七	二十九	二十	五	十四	二十四	十一	三十五	十五	十三	十五	三十三
二十	三十七	三十八	三十	二十一	四	十五	二十五	十二	三十六	十六	十四	十六	三十四
二十一	三十八	三十九	三十一	二十二	三	十六	二十六	十三	三十七	十七	十五	十七	三十五
二十二	三十九	四十	三十二	二十三	二	十七	二十七	十四	三十八	十八	十六	十八	三十六
二十三	四十	四十一	三十三	二十四	一	十八	二十八	十五	三十九	十九	十七	十九	三十七
二十四	四十一	四十二	三十四	二十五	〇	十九	二十九	十六	四十	二十	十八	二十	三十八
二十五	四十二	四十三	三十五	二十六	〇	二十	三十	十七	四十一	二十一	十九	二十一	三十九
二十六	四十三	四十四	三十六	二十七	〇	二十一	三十一	十八	四十二	二十二	二十	二十二	四十
二十七	四十四	四十五	三十七	二十八	〇	二十二	三十二	十九	四十三	二十三	二十一	二十三	四十一
二十八	四十五	四十六	三十八	二十九	〇	二十三	三十三	二十	四十四	二十四	二十二	二十四	四十二
二十九	四十六	四十七	三十九	三十	〇	二十四	三十四	二十一	四十五	二十五	二十三	二十五	四十三
三十	四十七	四十八	四十	三十一	〇	二十五	三十五	二十二	四十六	二十六	二十四	二十六	四十四
三十一	四十八	四十九	四十一	三十二	〇	二十六	三十六	二十三	四十七	二十七	二十五	二十七	四十五
三十二	四十九	五十	四十二	三十三	〇	二十七	三十七	二十四	四十八	二十八	二十六	二十八	四十六
三十三	五十	五十一	四十三	三十四	〇	二十八	三十八	二十五	四十九	二十九	二十七	二十九	四十七
三十四	五十一	五十二	四十四	三十五	〇	二十九	三十九	二十六	五十	三十	二十八	三十	四十八
三十五	五十二	五十三	四十五	三十六	〇	三十	四十	二十七	五十一	三十一	二十九	三十一	四十九
三十六	五十三	五十四	四十六	三十七	〇	三十一	四十一	二十八	五十二	三十二	三十	三十二	五十
三十七	五十四	五十五	四十七	三十八	〇	三十二	四十二	二十九	五十三	三十三	三十一	三十三	五十一
三十八	五十五	五十六	四十八	三十九	〇	三十三	四十三	三十	五十四	三十四	三十二	三十四	五十二
三十九	五十六	五十七	四十九	四十	〇	三十四	四十四	三十一	五十五	三十五	三十三	三十五	五十三
四十	五十七	五十八	五十	四十一	〇	三十五	四十五	三十二	五十六	三十六	三十四	三十六	五十四
四十一	五十八	五十九	五十一	四十二	〇	三十六	四十六	三十三	五十七	三十七	三十五	三十七	五十五
四十二	五十九	六十	五十二	四十三	〇	三十七	四十七	三十四	五十八	三十八	三十六	三十八	五十六
四十三	六十	六十一	五十三	四十四	〇	三十八	四十八	三十五	五十九	三十九	三十七	三十九	五十七
四十四	六十一	六十二	五十四	四十五	〇	三十九	四十九	三十六	六十	四十	三十八	四十	五十八
四十五	六十二	六十三	五十五	四十六	〇	四十	五十	三十七	六十一	四十一	三十九	四十一	五十九
四十六	六十三	六十四	五十六	四十七	〇	四十一	五十一	三十八	六十二	四十二	四十	四十二	六十
四十七	六十四	六十五	五十七	四十八	〇	四十二	五十二	三十九	六十三	四十三	四十一	四十三	六十一
四十八	六十五	六十六	五十八	四十九	〇	四十三	五十三	四十	六十四	四十四	四十二	四十四	六十二
四十九	六十六	六十七	五十九	五十	〇	四十四	五十四	四十一	六十五	四十五	四十三	四十五	六十三
五十	六十七	六十八	六十	五十一	〇	四十五	五十五	四十二	六十六	四十六	四十四	四十六	六十四
五十一	六十八	六十九	六十一	五十二	〇	四十六	五十六	四十三	六十七	四十七	四十五	四十七	六十五
五十二	六十九	七十	六十二	五十三	〇	四十七	五十七	四十四	六十八	四十八	四十六	四十八	六十六
五十三	七十	七十一	六十三	五十四	〇	四十八	五十八	四十五	六十九	四十九	四十七	四十九	六十七
五十四	七十一	七十二	六十四	五十五	〇	四十九	五十九	四十六	七十	五十	四十八	五十	六十八
五十五	七十二	七十三	六十五	五十六	〇	五十	六十	四十七	七十一	五十一	四十九	五十一	六十九
五十六	七十三	七十四	六十六	五十七	〇	五十一	六十一	四十八	七十二	五十二	五十	五十二	七十
五十七	七十四	七十五	六十七	五十八	〇	五十二	六十二	四十九	七十三	五十三	五十一	五十三	七十一
五十八	七十五	七十六	六十八	五十九	〇	五十三	六十三	五十	七十四	五十四	五十二	五十四	七十二
五十九	七十六	七十七	六十九	六十	〇	五十四	六十四	五十一	七十五	五十五	五十三	五十五	七十三
六十	七十七	七十八	七十	六十一	〇	五十五	六十五	五十二	七十六	五十六	五十四	五十六	七十四
六十一	七十八	七十九	七十一	六十二	〇	五十六	六十六	五十三	七十七	五十七	五十五	五十七	七十五
六十二	七十九	八十	七十二	六十三	〇	五十七	六十七	五十四	七十八	五十八	五十六	五十八	七十六
六十三	八十	八十一	七十三	六十四	〇	五十八	六十八	五十五	七十九	五十九	五十七	五十九	七十七
六十四	八十一	八十二	七十四	六十五	〇	五十九	六十九	五十六	八十	六十	五十八	六十	七十八
六十五	八十二	八十三	七十五	六十六	〇	六十	七十	五十七	八十一	六十一	五十九	六十一	七十九
六十六	八十三	八十四	七十六	六十七	〇	六十一	七十一	五十八	八十二	六十二	六十	六十二	八十
六十七	八十四	八十五	七十七	六十八	〇	六十二	七十二	五十九	八十三	六十三	六十一	六十三	八十一
六十八	八十五	八十六	七十八	六十九	〇	六十三	七十三	六十	八十四	六十四	六十二	六十四	八十二
六十九	八十六	八十七	七十九	七十	〇	六十四	七十四	六十一	八十五	六十五	六十三	六十五	八十三
七十	八十七	八十八	八十	七十一	〇	六十五	七十五	六十二	八十六	六十六	六十四	六十六	八十四
七十一	八十八	八十九	八十一	七十二	〇	六十六	七十六	六十三	八十七	六十七	六十五	六十七	八十五
七十二	八十九	九十	八十二	七十三	〇	六十七	七十七	六十四	八十八	六十八	六十六	六十八	八十六
七十三	九十	九十一	八十三	七十四	〇	六十八	七十八	六十五	八十九	六十九	六十七	六十九	八十七
七十四	九十一	九十二	八十四	七十五	〇	六十九	七十九	六十六	九十	七十	六十八	七十	八十八
七十五	九十二	九十三	八十五	七十六	〇	七十	八十	六十七	九十一	七十一	六十九	七十一	八十九
七十六	九十三	九十四	八十六	七十七	〇	七十一	八十一	六十八	九十二	七十二	七十	七十二	九十
七十七	九十四	九十五	八十七	七十八	〇	七十二	八十二	六十九	九十三	七十三	七十	七十三	九十一
七十八	九十五	九十六	八十八	七十九	〇	七十三	八十三	七十	九十四	七十四	七十一	七十四	九十二
七十九	九十六	九十七	八十九	八十	〇	七十四	八十四	七十一	九十五	七十五	七十二	七十五	九十三
八十	九十七	九十八	九十	八十一	〇	七十五	八十五	七十二	九十六	七十六	七十二	七十六	九十四
八十一	九十八	九十九	九十一	八十二	〇	七十六	八十六	七十三	九十七	七十七	七十二	七十七	九十五
八十二	九十九	一百	九十二	八十三	〇	七十七	八十七	七十四	九十八	七十八	七十二	七十八	九十六
八十三	一百	一百零一	九十三	八十四	〇	七十八	八十八	七十五	九十九	七十九	七十二	七十九	九十七
八十四	一百零一	一百零二	九十四	八十五	〇	七十九	八十九	七十六	一百	八十	七十二	八十	九十八
八十五	一百零二	一百零三	九十五	八十六	〇	八十	九十	七十七	一百零一	八十一	七十二	八十一	九十九
八十六	一百零三	一百零四	九十六	八十七	〇	八十一	九十一	七十八	一百零二	八十二	七十二	八十二	一百
八十七	一百零四	一百零五	九十七	八十八	〇	八十二	九十二	七十九	一百零三	八十三	七十二	八十三	一百零一
八十八	一百零五	一百零六	九十八	八十九	〇	八十三	九十三	八十	一百零四	八十四	七十二	八十四	一百零二
八十九	一百零六	一百零七	九十九	九十	〇	八十四	九十四	八十一	一百零五	八十五	七十二	八十五	一百零三
九十	一百零七	一百零八	一百	九十一	〇	八十五	九十五	八十二	一百零六	八十六	七十二	八十六	一百零四
九十一	一百零八	一百零九	一百零一	九十二	〇	八十六	九十六	八十三	一百零七	八十七	七十二	八十七	一百零五
九十二	一百零九	一百一十	一百零二	九十三	〇	八十七	九十七	八十四	一百零八	八十八	七十二	八十八	一百零六
九十三	一百一十	一百一十一	一百零三	九十四	〇	八十八	九十八	八十五	一百零九	八十九	七十二	八十九	一百零七
九十四	一百一十一	一百一十二	一百零四	九十五	〇	八十九	九十九	八十六	一百一十	九十	七十二	九十	一百零八
九十五	一百一十二	一百一十三	一百零五	九十六	〇	九十	一百	八十七	一百一十一	九十一	七十二	九十一	一百零九
九十六	一百一十三	一百一十四	一百零六	九十七	〇	九十一	一百零一	八十八	一百一十二	九十二	七十二	九十二	一百一十
九十七	一百一十四	一百一十五	一百零七	九十八	〇	九十二	一百零二	八十九	一百一十三	九十三	七十二	九十三	一百一十一
九十八	一百一十五	一百一十六	一百零八	九十九	〇	九十三	一百零三	九十	一百一十四	九十四	七十二	九十四	一百一十二
九十九	一百一十六	一百一十七	一百零九	一百	〇	九十四	一百零四	九十一	一百一十五	九十五	七十二	九十五	一百一十三
一百	一百一十七	一百一十八	一百一十	一百零一	〇	九十五	一百零五	九十二	一百一十六	九十六	七十二	九十六	一百一十四
一百零一	一百一十八	一百一十九	一百一十一	一百零二	〇	九十六	一百零六	九十三	一百一十七	九十七	七十二	九十七	一百一十五
一百零二	一百一十九	一百二十	一百一十二	一百零三	〇	九十七	一百零七	九十四	一百一十八	九十八	七十二	九十八	一百一十六
一百零三	一百二十	一百二十一	一百一十三	一百零四	〇	九十八	一百零八	九十五	一百一十九	九十九	七十二	九十九	一百一十七
一百零四	一百二十一	一百二十二	一百一十四	一百零五	〇	九十九	一百零九	九十六	一百二十	一百	七十二	一百	一百一十八
一百零五	一百二十二	一百二十三	一百一十五	一百零六	〇	一百	一百一十	九十七	一百二十一	一百零一	七十二	一百零一	一百一十九
一百零六	一百二十三	一百二十四	一百一十六	一百零七	〇	一百零一	一百一十一	九十八	一百二十二	一百零二	七十二	一百零二	一百二十
一百零七	一百二十四	一百二十五	一百一十七	一百零八	〇	一百零二	一百一十二	九十九	一百二十三	一百零三	七十二	一百零三	一百二十一
一百零八	一百二十五	一百二十六	一百一十八	一百零九	〇	一百零三	一百一十三	一百	一百二十四	一百零四	七十二	一百零四	一百二十二
一百零九	一百二十六	一百二十七	一百一十九	一百一十	〇	一百零四	一百一十四	一百零一	一百二十五	一百零五	七十二	一百零五	一百二十三
一百一十	一百二十七	一百二十八	一百二十	一百一十一	〇	一百零五	一百一十五	一百零二	一百二十六	一百零六	七十二	一百零六	一百二十四
一百一十一	一百二十八	一百二十九	一百二十一	一百一十二	〇	一百零六	一百一十六	一百零三	一百二十七	一百零七	七十二	一百零七	一百二十五
一百一十二	一百二十九	一百三十	一百二十二	一百一十三	〇	一百零七	一百一十七	一百零四	一百二十八	一百零八	七十二	一百零八	一百二十六
一百一十三	一百三十	一百三十一	一百二十三	一百一十四	〇	一百零八	一百一十八	一百零五	一百二十九	一百零九	七十二	一百零九	一百二十七
一百一十四	一百三十一	一百三十二	一百二十四	一百一十五	〇	一百零九	一百一十九	一百零六	一百三十	一百一十	七十二	一百一十	一百二十八
一百一十五	一百三十二	一百三十三	一百二十五	一百一十六	〇	一百一十	一百二十	一百零七	一百三十一	一百一十一	七十二	一百一十一	一百二十九
一百一十六	一百三十三	一百三十四	一百二十六	一百一十七	〇	一百一十一	一百二十一	一百零八	一百三十二	一百一十二	七十二	一百一十二	一百三十
一百一十七	一百三十四	一百三十五	一百二十七	一百一十八	〇	一百一十二	一百二十二	一百零九	一百三十三	一百一十三	七十二	一百一十三	一百三十一
一百一十八	一百三十五	一百三十六	一百二十八	一百一十九	〇	一百一十三	一百二十三	一百一十	一百三十四	一百一十四	七十二	一百一十四	一百三十二
一百一十九	一百三十六	一百三十七	一百二十九	一百二十	〇	一百一十四	一百二十四	一百一十一	一百三十五	一百一十五	七十二	一百一十五	一百三十三
一百二十	一百三十七	一百三十八	一百三十	一百二十一	〇	一百一十五	一百二十五	一百一十二	一百三十六	一百一十六	七十二	一百一十六	一百三十四
一百二十一	一百三十八	一百三十九	一百三十一	一百二十二	〇	一百一十六	一百二十六	一百一十三	一百三十七	一百一十七	七十二	一百一十七	一百三十五
一百二十二	一百三十九	一百四十	一百三十二	一百二十三	〇	一百一十七	一百二十七	一百一十四	一百三十八	一百一十八	七十二	一百一十八	一百三十六
一百二十三	一百四十	一百四十一	一百三十三	一百二十四	〇	一百一十八	一百二十八	一百一十五	一百三十九	一百一十九	七十二	一百一十九	一百三十七
一百二十四	一百四十一	一百四十二	一百三十四	一百二十五	〇	一百一十九	一百二十九	一百一十六	一百四十	一百二十	七十二	一百二十	一百三十八
一百二十五	一百四十二	一百四十三	一百三十五	一百二十六	〇	一百二十	一百三十	一百一十七	一百四十一	一百二十一	七十二	一百二十一	一百三十九
一百二十六	一百四十三	一百四十四	一百三十六	一百二十七	〇	一百二十一	一百三十一	一百一十八	一百四十二	一百二十二	七十二	一百二十二	一百四十
一百二十七	一百四十四	一百四十五	一百三十七	一百二十八	〇	一百二十二	一百三十二	一百一十九	一百四十三	一百二十三	七十二	一百二十三	一百四十一
一百二十八	一百四十五	一百四十六	一百三十八	一百二十九	〇	一百二十三	一百三十三	一百二十	一百四十四	一百二十四	七十二	一百二十四	一百四十二
一百二十九	一百四十六	一百四十七	一百三十九	一百三十	〇	一百二十四	一百三十四	一百二十一	一百四十五	一百二十五	七十二	一百二十五	一百四十三
一百三十	一百四十七	一百四十八	一百四十	一百三十一	〇	一百二十五	一百三十五	一百二十二	一百四十六	一百二十六	七十二	一百二十六	一百四十四
一百三十一	一百四十八	一百四十九	一百四十一	一百三									

甲戌	二十	十九	十八	十七	十六	十五
卒后太子	日蝕	公如晉	朝晉至	朝晉至	朝晉至	朝晉至
日蝕	日蝕	公如晉	公如晉	公如晉	公如晉	公如晉
二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十
星見辰	正月	晉留之	晉留之	晉留之	晉留之	晉留之
十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二
二十四	二十三	二十二	二十一	二十	十九	十八
二	晉頃公	公卒	公卒	公卒	公卒	公卒
十三	十二	十一	十	九	八	七
五	四	三	二	一	一	一
與吳戰	與吳戰	與吳戰	與吳戰	與吳戰	與吳戰	與吳戰
八	七	六	五	四	三	二
火	火	火	火	火	火	火
十一	十	九	八	七	六	五
火	九	八	七	六	五	四
七	六	五	四	三	二	一
平公薨	平公薨	平公薨	平公薨	平公薨	平公薨	平公薨
火	五	四	三	二	一	一
共公薨	共公薨	共公薨	共公薨	共公薨	共公薨	共公薨
三	二	一	一	一	一	一
與楚戰	與楚戰	與楚戰	與楚戰	與楚戰	與楚戰	與楚戰
吳僚元	吳僚元	吳僚元	吳僚元	吳僚元	吳僚元	吳僚元

甲申	三	二	二十五	二十四	二十三	二十二
居郟公出	桓季氏攻	公欲誅	年敬王元	地震	地震	地震
三十一	三十	二十九	二十八	二十七	二十六	二十五
九	八	七	六	五	四	三
二十	十九	十八	十七	十六	十五	十四
十二	十一	十	九	八	七	六
十五	十四	十三	十二	十一	十	九
十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二
十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一
二	一	一	一	一	一	一
七	六	五	四	三	二	一
十三	十二	十一	十	九	八	七
七	六	五	四	三	二	一
十	九	八	七	六	五	四

甲辰						
二十三						
十三	行桓女齊十二 之桓樂來歸 孔子受樂遺魯 子季樂魯女					
五十一						
十五	范趙十 中鞅五 行伐					
四						
十九						
二十						
五						
二十二						
五						
四						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						
五						
二十二						
五						
四						
十八						

連衡の説なり、短長も亦此に同じ、即ち彼に趣けば短たり此に歸せば長たりと説く蘇秦張儀の術なり、矯稱、ためいつはるとほめたふるとの語なり、

秦始小國、僻遠、諸夏賓之、比於戎翟、至獻公之後、常雄諸侯、論秦之德義、不如魯衛之暴戾者、量秦之兵、不如三晉之彊也、然卒并天下、非必險固便形勢利也、蓋若天所助焉、

【講義】 秦は始め小國にして中國より遠く隔れり、故に諸夏は之を斥け棄て、戎翟の如く取り扱へり、然るに獻公に至るの後は常に諸侯の中にも強大となれり、されど秦の最も善しとする所の德義を以て中國と比較するに、魯衛に於て暴戾と稱する者よりも尙暴戾なり、又秦の兵力を以て三晉の強大に量れば是れ亦足らざるなり、然れども卒に天下を并せ有てり、是れ必ずしも山川險阻の固ある便及び形勢の

利ありしのみにあらざるなり、蓋し天の助くる所ありしが如し、

【字解】 賓、擯と通ず、斥くなり、棄つなり、或曰、東方、物所始生、西方、物之成孰、夫作事者、必於東南、收功實者、常於西北、故禹興於西羌、湯起於亳、周之王也、以豐鎬伐殷、秦之帝、用雍州興、漢之興、自蜀漢、

【講義】 或る人曰く、東方は物の始めて生ずる所なり、西方は物の成孰する所なり、夫れ事を作す者は必ず東南に於てし、功績實果を收むる者常に西北に於てすと、故に禹は西羌に興り、湯は亳に起り、周の王たるや豐鎬より殷を伐ちぬ、秦の帝たるや雍州より興り、漢の興れるは蜀漢よりせり、是れ其の興れる地は皆中國に於て西北なり、

秦既得意、燒天下詩書、諸侯史記尤甚、爲其有所刺譏也、詩書所以復見者、多藏人家、而史記獨藏周室、以故滅、惜哉、惜哉、獨有秦記、又不載日月、其文略不具、然戰國之權變、亦有可頗采者、何必上古、

【講義】 秦既に天下を并せ有ちて思ひのまゝなることを得たり、是に於て天下の詩書を燒きぬ、就中諸侯の史記尤甚しく災害を蒙れり、是れ其の書には刺譏する所ありしが爲なり、詩書の後に至りて復見るとを得たるは、多く民家に藏したればなり、而して史記のみは周室に藏めたり、故を以て滅亡したるなり、惜いかな、惜いかな、秦は書を焚くといへども自國の史は燒かず、是を以て獨秦の史記のみ存せり、されど又日月を載せず、其文異にして具らず、然れども戰國の

權力争によりて變化したる迹は歴然たり、故に之によりて亦頗る采るべき者あり、何ぞ必ずしも上古のもののみを求めむや、

秦取天下多暴、然世異變成功、大傳曰、法後王、何也、以其近己而俗變相類、議卑而易行也、學者牽於所聞、見秦在帝位日淺、不察其終始、因舉而笑之、不敢道、此與以耳食、無異、悲夫、余於是因秦記踵春秋之後、起周元王、表六國時事、訖二世、凡七百年、著諸所聞興壞之端、後有君子、以覽觀焉、

【講義】 秦天下を取りて暴政多し、然れども時代の異なるに適ふやう其の政を變易したれば其の効果を

九	八	七	六	五	四	三	二	威烈王元年	十	十	十	十
城八 以君 壘河 主頻 妻河 初	與七 魏戰 少梁	六	五	四	作三 上下時	二	生秦 靈公 元年	之大 公太 子立 靈公 子	庶長 毘殺 懷	三	二	生秦 懷公 元年
復城 少梁	七	魏晉 烈公 止元 年	五 魏誅 晉幽 公	四	三	二	魏文 侯斯 元年	衛悼 公薨 元年				
八	七	六	五	四	三	二	韓武 子元 年					
七	六	五	四	三	二	一	趙獻 侯元 年	襄三 子卒	三	三	三	二
十	十	十	十	十	十	九	八	七	六	五	四	三
五	四	三	二	一	十	九	八	七	六	五	四	三
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
七	六	五	四	三	二	一	十	九	八	七	六	五
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十

二	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
九	八	七	六	五	四	三	二	一	九	九	九	九
初租 禾重 泉	七 壘洛 城重 泉	六 初令 吏帶 劍	五 日蝕	四	三	二 與晉 戰敗 鄭	秦簡 公元 年	姑靈 公卒 立籍	十 補龐 城卒 立籍	十	十	十
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
之夏 閼過 常段 式千 木八	洛秦 陽至 鄭中 還山 築伐	元伐 秦築 臨晉	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
三	二	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
二	二	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
五	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十

三十一	秦大荔圍商地	我恐弗內歸我	二	十	十	二	二	十	四	五
三十二	秦惠文王元年	楚韓趙蜀人來	三	十	四	二	十	三	二	六
三十三	宋太子丘賀社行錢	利孟三國子對利君問	二	十	三	二	十	四	二	六
三十四	陽王冠拔韓宜	秦拔我宜陽	二	十	四	二	十	七	二	七
三十五	胙天子致文武	不宜早作高門侯	二	十	五	二	十	六	二	八
三十六	陰晉人犀首	卒高門成昭侯	二	十	七	二	十	六	二	九
三十七	魏以陰晉秦	韓宣惠王元年	二	十	八	二	十	七	二	十
三十八	義渠內亂庶	長操將兵定之	二	十	九	二	十	八	二	十
三十九	魏八入少梁河	西魏入秦河	三	十	十	二	十	九	三	十

四十一	皮氏圍取汾陰	取與秦會雍秦	二	十	一	二	十	四	十	四
四十二	桑圍儀公降子	入七上郡于秦	五	十	二	二	十	二	楚懷王槐元年	五
四十三	初臘會龍門	九	七	十	三	二	十	三	六	七
四十四	君月戊午魏	魏敗我韓舉	八	十	四	二	十	四	七	八
四十五	相張儀將兵	衛嗣君元年	九	十	五	二	十	五	八	九
四十六	楚相張儀與齊	君為王	十	十	六	二	十	六	九	十
四十七	魏張儀免相	夫周秦取曲沃平	十	十	七	二	十	七	十	十一
四十八	至王河北遊戎池	秦來擊我取鄆	十	十	八	二	十	八	十	十二
四十九	慎觀王元年	城廣陵	十	十	九	二	十	九	十	十三
五十		燕王噲元年	二	十	十	二	十	十	十	十四
五十一		迎婦于秦	五	十	十一	二	十	十一	十	十五
五十二		封田嬰於薛	三	十	十二	二	十	十二	十	十六
五十三		齊潛王地元年	十	十	十三	二	十	十三	十	十七
五十四			九	十	十四	二	十	十四	十	十八
五十五			八	十	十五	二	十	十五	十	十九
五十六			七	十	十六	二	十	十六	十	二十
五十七			六	十	十七	二	十	十七	十	二十一
五十八			五	十	十八	二	十	十八	十	二十二
五十九			四	十	十九	二	十	十九	十	二十三
六十			三	十	二十	二	十	二十	十	二十四
六十一			二	十	二十一	二	十	二十一	十	二十五
六十二			一	十	二十二	二	十	二十二	十	二十六
六十三			十	十	二十三	二	十	二十三	十	二十七
六十四			九	十	二十四	二	十	二十四	十	二十八
六十五			八	十	二十五	二	十	二十五	十	二十九
六十六			七	十	二十六	二	十	二十六	十	三十
六十七			六	十	二十七	二	十	二十七	十	三十一
六十八			五	十	二十八	二	十	二十八	十	三十二
六十九			四	十	二十九	二	十	二十九	十	三十三
七十			三	十	三十	二	十	三十	十	三十四
七十一			二	十	三十一	二	十	三十一	十	三十五
七十二			一	十	三十二	二	十	三十二	十	三十六
七十三			十	十	三十三	二	十	三十三	十	三十七
七十四			九	十	三十四	二	十	三十四	十	三十八
七十五			八	十	三十五	二	十	三十五	十	三十九
七十六			七	十	三十六	二	十	三十六	十	四十
七十七			六	十	三十七	二	十	三十七	十	四十一
七十八			五	十	三十八	二	十	三十八	十	四十二
七十九			四	十	三十九	二	十	三十九	十	四十三
八十			三	十	四十	二	十	四十	十	四十四
八十一			二	十	四十一	二	十	四十一	十	四十五
八十二			一	十	四十二	二	十	四十二	十	四十六
八十三			十	十	四十三	二	十	四十三	十	四十七
八十四			九	十	四十四	二	十	四十四	十	四十八
八十五			八	十	四十五	二	十	四十五	十	四十九
八十六			七	十	四十六	二	十	四十六	十	五十
八十七			六	十	四十七	二	十	四十七	十	五十一
八十八			五	十	四十八	二	十	四十八	十	五十二
八十九			四	十	四十九	二	十	四十九	十	五十三
九十			三	十	五十	二	十	五十	十	五十四
九十一			二	十	五十一	二	十	五十一	十	五十五
九十二			一	十	五十二	二	十	五十二	十	五十六
九十三			十	十	五十三	二	十	五十三	十	五十七
九十四			九	十	五十四	二	十	五十四	十	五十八
九十五			八	十	五十五	二	十	五十五	十	五十九
九十六			七	十	五十六	二	十	五十六	十	六十
九十七			六	十	五十七	二	十	五十七	十	六十一
九十八			五	十	五十八	二	十	五十八	十	六十二
九十九			四	十	五十九	二	十	五十九	十	六十三
一百			三	十	六十	二	十	六十	十	六十四
一百一			二	十	六十一	二	十	六十一	十	六十五
一百二			一	十	六十二	二	十	六十二	十	六十六
一百三			十	十	六十三	二	十	六十三	十	六十七
一百四			九	十	六十四	二	十	六十四	十	六十八
一百五			八	十	六十五	二	十	六十五	十	六十九
一百六			七	十	六十六	二	十	六十六	十	七十
一百七			六	十	六十七	二	十	六十七	十	七十一
一百八			五	十	六十八	二	十	六十八	十	七十二
一百九			四	十	六十九	二	十	六十九	十	七十三
一百十			三	十	七十	二	十	七十	十	七十四
一百一十			二	十	七十一	二	十	七十一	十	七十五
一百一十一			一	十	七十二	二	十	七十二	十	七十六
一百一十二			十	十	七十三	二	十	七十三	十	七十七
一百一十三			九	十	七十四	二	十	七十四	十	七十八
一百一十四			八	十	七十五	二	十	七十五	十	七十九
一百一十五			七	十	七十六	二	十	七十六	十	八十
一百一十六			六	十	七十七	二	十	七十七	十	八十一
一百一十七			五	十	七十八	二	十	七十八	十	八十二
一百一十八			四	十	七十九	二	十	七十九	十	八十三
一百一十九			三	十	八十	二	十	八十	十	八十四
一百二十			二	十	八十一	二	十	八十一	十	八十五
一百二十一			一	十	八十二	二	十	八十二	十	八十六
一百二十二			十	十	八十三	二	十	八十三	十	八十七
一百二十三			九	十	八十四	二	十	八十四	十	八十八
一百二十四			八	十	八十五	二	十	八十五	十	八十九
一百二十五			七	十	八十六	二	十	八十六	十	九十
一百二十六			六	十	八十七	二	十	八十七	十	九十一
一百二十七			五	十	八十八	二	十	八十八	十	九十二
一百二十八			四	十	八十九	二	十	八十九	十	九十三
一百二十九			三	十	九十	二	十	九十	十	九十四
一百三十			二	十	九十一	二	十	九十一	十	九十五
一百三十一			一	十	九十二	二	十	九十二	十	九十六
一百三十二			十	十	九十三	二	十	九十三	十	九十七
一百三十三			九	十	九十四	二	十	九十四	十	九十八
一百三十四			八	十	九十五	二	十	九十五	十	九十九
一百三十五			七	十	九十六	二	十	九十六	十	一百
一百三十六			六	十	九十七	二	十	九十七	十	一百一
一百三十七			五	十	九十八	二	十	九十八	十	一百二
一百三十八			四	十	九十九	二	十	九十九	十	一百三
一百三十九			三	十	一百	二	十	一百	十	一百四
一百四十			二	十	一百一	二	十	一百一	十	一百五
一百四十一			一	十	一百二	二	十	一百二	十	一百六
一百四十二			十	十	一百三	二	十	一百三	十	一百七
一百四十三			九	十	一百四	二	十	一百四	十	一百八
一百四十四			八	十	一百五	二	十	一百五	十	一百九
一百四十五			七	十	一百六	二	十	一百六	十	一百十
一百四十六			六	十	一百七	二	十	一百七	十	一百一十
一百四十七			五	十	一百八	二	十	一百八	十	一百二十
一百四十八			四	十	一百九	二	十	一百九	十	一百三十
一百四十九			三	十	一百十	二	十	一百十	十	一百四十
一百五十			二	十	一百一十	二	十	一百一十	十	一百五十
一百五十一			一	十	一百二十	二	十	一百二十	十	一百六十
一百五十二			十	十	一百三十	二	十	一百三十	十	一百七十
一百五十三			九	十	一百四十	二	十	一百四十	十	一百八十
一百五十四			八	十	一百五十	二	十	一百五十	十	一百九十
一百五十五			七	十	一百六十	二	十	一百六十	十	二百
一百五十六			六	十	一百七十	二	十	一百七十	十	二百一
一百五十七			五	十	一百八十	二	十	一百八十	十	二百二
一百五十八			四	十	一百九十	二	十	一百九十	十	二百三
一百五十九			三	十	二百	二	十	二百	十	二百四
一百六十			二	十	二百一	二	十	二百一	十	二百五
一百六十一			一	十	二百二	二	十	二百二	十	二百六
一百六十二			十	十	二百三	二	十	二百三	十	二百七
一百六十三			九	十	二百四	二	十	二百四	十	二百八
一百六十四			八	十	二百五	二	十	二百五	十	二百九
一百六十五			七	十	二百六	二	十	二百六	十	三百
一百六十六			六	十	二百七	二	十	二百七	十	三百一
一百六十七			五	十	二百八	二	十	二百八	十	三百二
一百六十八			四	十	二百九	二	十	二百九	十	三百三
一百六十九			三	十	三百	二	十	三百	十	三百四
一百七十			二	十	三百一	二	十	三百一	十	三百五
一百七十一			一	十	三百二	二	十	三百二	十	三百六
一百七十二			十	十	三百三	二	十	三百三	十	三百七
一百七十三			九	十	三百四	二	十	三百四	十	三百八
一百七十四			八	十	三百五	二	十	三百五	十	三百九
一百七十五			七	十	三百六	二	十	三百六	十	四百
一百七十六			六	十	三百七	二	十	三百七	十	四百一
一百七十七			五	十	三百八	二	十	三百八	十	四百二
一百七十八			四	十	三百九	二	十	三百九	十	四百三
一百七十九			三	十	四百	二	十	四百	十	四百四
一百八十			二	十	四百一	二	十	四百一	十	四百五
一百八十一			一	十	四百二	二	十	四百二	十	四百六
一百八十二			十	十	四百三	二	十	四百三	十	四百七
一百八十三			九	十	四百四	二	十	四百四	十	四百八
一百八十四			八	十	四百五	二	十	四百五	十	四百九
一百八十五			七	十	四百六	二	十	四百六	十	五百
一百八十六			六	十	四百七	二	十	四百七	十	五百一
一百八十七			五	十	四百八	二	十	四百八	十	五百二
一百八十八			四	十	四百九	二	十	四百九	十	五百三
一百八十九			三	十	五百	二	十	五百	十	五百四
一百九十			二	十	五百一	二	十	五百一	十	五百五
一百九十一			一	十	五百二	二	十	五百二	十	五百六
一百九十二			十	十	五百三	二	十	五百三	十	五百七
一百九十三			九	十	五百四	二	十	五百四	十	五百八
一百九十四			八	十	五百五	二	十	五百五	十	五百九
一百九十五			七	十	五百六	二	十	五百六	十	六百
一百九十六			六	十	五百七	二	十	五百七	十	六百一
一百九十七			五	十	五百八	二	十	五百八	十	六百二
一百九十八			四	十	五百九	二	十</			

南擊首殺桓十 彗趙十趙麟 星王萬扈擊 見之因轍平 河東斬陽三	舍韋魏發十 人卒擊四 遷復楚郡 蜀嫪呂兵 者壽不助二	闕南呂十 與王不 取翦章 九擊之 城鄴河一	陽酒免相十 大太齊國 索后趙呂 十入來不 日成置章	彗其嫪彗九 星舍壽星 復人為見 見子亂竟 蜀遷天	侯嫪八 毒封長信	薨西彗七 蒙方星見 驚夏北 死太北 后方
九	秦八 助我擊楚	七	六	陽秦五 衍拔我垣蒲	四	秦三 拔我汲
五	四	三	二	韓王安元年	三 十 四	三 十 三
十秦二 萬扈拔我 轍斬平 首陽	趙王遷元年	鄴秦九 取拔我 城闕與	入秦置酒	七	六	五
四	秦三 魏擊我	二	楚幽王悍元年	君李園殺十 春申五	二 十 四	二 十 三
二 十 一	二 十 三	十 九	十 八	十 七	十 六	十 五
三 十 一	三 十 十	二 十九	入秦置酒八	二 十七	二 十六	二 十五

其其王二 地王賁十 假擊十 盡魏 取得二	王二 賁擊十 楚一	王軻燕二 翦刺太子 將王子 擊覺使 燕之荆十	帝王王十 太遷翦 后之拔 薨邯趙 鄆虜九	十 八	郡其韓內十 地王史騰 華置安擊 陽置穎盡 太后穎川 取三	受置十 韓麗 南邑發 陽地卒六	孟至興十 太軍 原至鄴 取軍五	非使武桓十 韓非城麟 王來宜定 請我安平 臣殺韓陽四
秦三 虜王假	二	魏王假元年	十 五	衛君角元年四	十 三	十 二	十 一	十
				秦滅韓	秦九 虜王安	秦八 來受地	六	
三	二	代王嘉元年	嘉遷秦八 自立邯鄲 為代王子	七	六	地五 大動	四 秦拔我 吾軍鄴孟	秦三 拔我宜安
三	十秦二 城大破我 取	兄負楚王 芻哀王庶	月立幽十 負芻殺哀 王三弟	九	八	七	六	五
三	遠太子秦二 東子拔我 丹從薊十 王得九	代軻太二 我刺子 秦丹十 王使秦 荆八	二 十 七	二 十 六	二 十 五	二 十 四	秦太二 亡子來 丹質於 三	二 十 二
十 四 十	三 十 九	三 十 八	三 十 七	三 十 六	三 十 五	三 十 四	三 十 三	三 十 二

斯之難也、秦既稱帝、患兵革不休、以有諸侯也、於是無尺土之封、墮壞名城、銷鋒鏑、鉏豪桀、維萬世之安、然王跡之興、起於閭巷、合從討伐、軼於三代、鄉秦之禁、適足以資賢者、爲驅除難耳、故憤發其所爲天下雄、安在無土不王、此乃傳之所謂大聖乎、豈非天哉、豈非天哉、非大聖孰能當此受命而帝者乎、

【講義】 昔虞夏の興るや、善を積み功を累ぬること數十年、其徳は百姓に洽く、政事を攝り行ふに之を天の七政に考へ、然る後に位に即けり、湯武の王と爲りしは乃ち其の祖先の契と后稷とが仁を修め義を行ひしに由れり、其の後十餘世の後八百の諸侯期せずし

て孟津に會し、以て紂を亡さむとせり、然れども武王は猶以て未だ可ならずとなせり、夏の後に至り始めて君を放ち主を弑する者あるに至れり、秦は襄公に起り、文公繆公に章れ、獻公孝公の後に稍く六國を蠶食し、百有餘載にして始皇に至り、乃ち能く始めて冠帶の類を并せき、夫れ徳を以てすること舜・禹・契・后稷及び秦の襄文穆の如くし、力を用ふることを湯・武及び秦の始皇の如くして始めて天下に王たりしなり、蓋し天下を一統することはそれ斯の如く難きなり、秦既に帝と稱し、兵革の休まざるを思ふ、兵革の止まざるは此れ諸侯あるが爲めなりと思ひ、是に於て尺土の封邑をも無くして全く諸侯を廢し、名城を墮壞し、鋒鏑を銷して金人十二を作り、天下の豪傑を誅し、以て萬世の安きを度りき、然ども王者の興るは思ひもよらぬ民間より起り、合從討伐は三代に過ぎたり、且つ向に秦の諸侯を禁じて郡縣となしたるは、適以て後の賢者に資して天下の難を驅除するに足らしめたるのみ、故に後の賢者憤憤すれば其の爲す所遂に天下の雄となれり、安んぞ古人の所謂土無くんば王たらじと云ふことあらむや、此れ乃ち傳に所

謂大聖ならむか、豈に天にあらすや、豈に天にあらすや、大聖にあらすんば、たれか能く此の際に當りて命を受けて帝たる者あらむや、

【字解】 虞夏、舜禹の國號なり、考之于天、天は七政をいふ、七政は日月五星なり、爲未可、八百の諸侯が紂を伐たむとするを武王が止めたりしをいふ、其後、夏より後なり、放弑、湯が桀を放ち武王が紂を討ちしをいふ、蠶食、かひこの桑葉を食ふが如く侵略するをいふ、倫、類也、以德若彼、彼とは舜・禹・契・后稷及び秦の襄文穆の三公を指す、用力、如此、此とは

湯・武及び秦の始皇を指す、兵革、戰爭のこと、銷、鋒鏑、銷は鎔なり、とらかすなり、鋒鏑はほこさき・やじりなり、凡ての兵器をいふ、これは兵器を鎔解して金人十二を造りしを指す、鉏、ソグなり、誅すると、維、度なり、ハカルと訓む、閭巷、民間といふに同じ、軼、過ぐなり、秦之禁、禁は諸侯を廢して兵を銷せしをいふ、賢者、漢の高祖を指す、天下雄、高祖を指す、無土不王、白虎通に聖人無土不王、使舜不遭堯、當如夫子老於闕里也とあり、

月表説明

第二行 第二段の「楚、陳、涉、起、兵、入、秦」は二世元年七月に陳涉が兵を起して秦に攻入りたることを記す、
 第三行 第一段の「八月」は二世元年の八月なり、第二段の「二」は陳涉起兵入秦の第二月が二世元年の八月なるを記す、以下の各行に掲げたる數字は其國君の第何月なるかを示せるなり、

秦	楚	項	趙	齊	漢	燕	魏	韓
七	二							
世	世							
元	元							
年	年							
八	二							
月	月							
	兵入秦		武臣始至邯鄲自立爲趙王始					
	楚陳涉起兵入秦		葛嬰爲涉徇九江立襄彊爲楚王					

九	楚兵至戲	三周文兵至戲	三項梁號武信	二齊王田儂始	沛公初起	韓廣為趙略	魏王咎始
二	周文死	三李良殺武臣	三僂之起殺狄	二秦監軍	二始立為燕王	三齊趙共立周	三魏王咎不
十一	周文死	四張耳陳餘走	三僂之起殺狄	二秦監軍	二始立為燕王	三齊趙共立周	三魏王咎不
十二月	陳涉死	五張耳陳餘立	四秦監軍	二秦監軍	二始立為燕王	三齊趙共立周	三魏王咎不
端	楚王景駒始	五張耳陳餘立	四秦監軍	二秦監軍	二始立為燕王	三齊趙共立周	三魏王咎不
二	嘉為上將軍	六張耳陳餘立	四秦監軍	二秦監軍	二始立為燕王	三齊趙共立周	三魏王咎不
三	梁擊殺景駒	七張耳陳餘立	四秦監軍	二秦監軍	二始立為燕王	三齊趙共立周	三魏王咎不
四	秦嘉遂入薛	八張耳陳餘立	四秦監軍	二秦監軍	二始立為燕王	三齊趙共立周	三魏王咎不

五	楚懷王始都	五項梁號武信	二齊王田儂始	沛公初起	韓廣為趙略	魏王咎始	韓王成韓始
六	孫立之	三項梁號武信	三僂之起殺狄	二秦監軍	二始立為燕王	三齊趙共立周	三魏王咎不
七	陳嬰為柱國	四張耳陳餘立	三僂之起殺狄	二秦監軍	二始立為燕王	三齊趙共立周	三魏王咎不
八	秦軍乘勝至	五張耳陳餘立	四秦監軍	二秦監軍	二始立為燕王	三齊趙共立周	三魏王咎不
九	秦軍乘勝至	六張耳陳餘立	四秦監軍	二秦監軍	二始立為燕王	三齊趙共立周	三魏王咎不
後九月	徙都彭城	七張耳陳餘立	四秦監軍	二秦監軍	二始立為燕王	三齊趙共立周	三魏王咎不
三年十月	上將軍	八張耳陳餘立	四秦監軍	二秦監軍	二始立為燕王	三齊趙共立周	三魏王咎不
十一月	拜七籍上將軍	九張耳陳餘立	四秦監軍	二秦監軍	二始立為燕王	三齊趙共立周	三魏王咎不

而同姓五十五、地上不過百里、
下三十里、以輔衛王室、管・蔡・康・
叔・曹・鄭、或過或損、厲・幽之後、王
室缺、侯伯疆國興焉、天子微、弗
能正、非德不純、形勢弱也、漢興
序二等、高祖末年、非劉氏而王
者、若無功、上所不置而侯者、天
下共誅之、高祖子弟同姓、爲王
者九國、唯獨長沙異姓、而功臣
侯者百餘人、自鴈門・太原以東、
至遼陽、爲燕・代・國、常山以南、大
行左轉、度河・濟、阿甄以東、薄海
爲齊・趙・國、自陳以西、南至九疑、

東帶江淮穀泗、薄會稽、爲梁・楚・
吳・淮南・長沙・國、皆外接於胡越、
而內地北距山、以東盡諸侯地、
大者或五六郡、連城數十、置百
官宮觀、僭於天子、漢獨有三河、
東郡・潁川・南陽、自江陵以西、至
蜀・北自雲中、至隴西、與內史、凡
十五郡、而公主列侯、頗食邑、其
中何者、天下初定、骨肉同姓少、
故廣彊庶孽、以鎮撫四海、用承
衛天子也、

【講義】太史公曰く、殷より前は久遠なれば略す、周の諸侯を封するや五等に分つ、即ち公侯伯子男なり、されど其の封地の廣袤は一定せず、伯禽康叔を魯衛

に封じて地各、四百里あり、是れ其の等級より大いなるは親を親とするの義にして、且つ有徳を褒めてなり、又太公の齊に封せらるゝや、其の廣さ五侯の地を兼ねたり、是れ其の勤勞を尊びてなり、武王成王康王の封する所の諸侯は凡て數百にして、其の中周と同姓のもの五十五あり、而して封地の上位は田地百里に過ぎず、下位は三十里に止まる、是を以て王室を輔け衛らしむるなり、而して管・蔡・衛・曹及び鄭の諸國は或は過ぎ或は及ばず、厲王幽王の後王室缺けて侯伯疆國興れり、されど天子の勢威微にして正すこと能はず、是れ周の王徳純一ならざるにあらず、形勢弱ければなり、漢興りて二等を序す、高祖の末年に、劉氏にあらずして王たる者と若しくは功無くして上の置かざるに自ら侯となれる者とは、天下共に之を誅したり、高祖の子弟及び同姓にして王たる者は九國あり、唯獨り長沙王のみは異姓なり、而して功臣にして侯たる者は百有餘人あり、鴈門・太原より東遼陽に至る迄は燕・代の國たり、常山より、南大行より左に轉じて河・濟を度りて阿甄より東の方海に薄るまでは齊・趙の國たり、陳より西南九疑山に至り、東の方江淮穀泗

の四水を帯びて會稽に薄るまでは梁・楚・吳・淮南・長沙の國たり、此等の國は其の外境、北は胡、南は越に接せり、而して内地は大山相比次して、其より東は盡く諸侯の地なり、大いなるは或は五六郡を兼ねて城を連ぬること數十、百官宮觀を置きて天子になぞらふ、漢は獨り三河・東郡・潁川・南陽及び江陵より西蜀に至る間と北は雲中より隴西と内史とに至る間と凡て十五郡を有てり、而して公主列侯の食邑、其中に在り、何となれば、天下始めて定まりて骨肉同姓尙未だ少し、故に彊力の庶子を其間に配置して、四海を鎮撫し、以て天子を承け衛らしめられたればなり、
【字解】尙矣、久遠なり、成・康、成王康王なり、管・蔡・康叔・曹・鄭、管は武王の弟叔鮮の封國なり、蔡は武王の弟叔度の封國なり、康叔は武王の弟なり、衛に封ぜらる、曹は武王の弟叔振鐸の封國なり、鄭は宣王の弟友の封國なり、此の鄭を以て上の四國に次げるは衍なるが如し、純、純一なり、序、二等、漢功臣を封するに大を王となし小を侯となし、と、九國、齊・楚・荆・淮南・燕・趙・梁・代・淮陽是なり、河・濟・阿甄、河は黃河、濟は濟水、阿甄は地名なり、九疑、山の名なり、穀

泗、二水の名なり、内地北距山以東、北の字比の誤ならむ、距山は大山なり、宮觀、宮は宮殿なり、觀は道家の樓なり、僭、下たる者上に擬すること、ナゾラフと訓む、三河、河東・河内、河南の三郡をいふ、内史、京兆のこと、廣彊、強力なり、庶孽、妾腹の子なり、

漢定百年之間、親屬益疎、諸侯或驕奢、**怵**邪臣計謀、爲淫亂、大者叛逆、小者不軌于法、以危其命、殞身亡國、天子觀於上古、然後加惠、使諸侯得推恩、分子弟國邑、故齊分爲七、趙分爲六、梁分爲五、淮南分三、及天子支庶子爲王、王子支庶爲侯、百有餘焉、

【講義】漢定まりて百年の間、親屬益、疎くして諸侯

の中或は驕奢にして邪臣の計謀に習ひ、淫亂を爲すものあり、其の大いなる者は叛逆し、小さき者は法に循はず、以て自ら其の命を危くし、身を殞し國を亡せり、是に於て天子上古の制を觀察し、晁錯賈生主父偃等の策を用ひて諸侯に恵を加へ、諸侯をして自ら恩を推して其の子弟に國邑を分つことを得せしむ、故に齊分れて齊・城陽・濟北・濟南・菑川・膠西・膠東の七國となり、趙分れて趙・河間・廣川・中山・常山・清河の六國となり、梁分れて梁・濟陽・濟川・濟東・山陽の五國となり、淮南分れて淮南・廬江・衡山の三國と爲る、又天子の支庶子を王と爲し、王子の庶子を侯と爲して、凡て百有餘に達せり、

【字解】怵、怵の誤、習なり、軌、循ふなり、殞、歿なり、コロスと訓む、支庶子、妾腹なり、

吳楚時、前後諸侯、或以適削地、是以燕代無北邊郡、吳淮南長沙無南邊郡、齊趙梁楚支郡、名山・陂海、咸納於漢、諸侯稍微、大

國不過十餘城、小侯不過數十里、上足以奉貢職、下足以供養祭祀、以蕃輔京師、而漢郡八九十、形錯諸侯間、犬牙相臨、秉其阨塞、地利、彊本幹、弱枝葉之勢也、尊卑明而萬事各得其所矣、

【講義】吳楚七國の反せし時、前後の諸侯或は罪を以て地を削らる、是を以て燕・代には北邊の郡無く、吳・淮南・長沙には南邊の郡無く、齊・趙・梁・楚の支郡及名山・陂海は皆漢に入りて、諸侯は是より稍微弱となれり、大國といへども十餘城を持つに過ぎず、小侯は數十里に過ぎず、唯上は貢物を獻じ職務を奉ずるに足り、下は己が祖先の祭祀を供養するに足るのみにして、以て京師をまもり輔けり、而して漢の郡は八九十に及び、其の地形は諸侯の間に雜りて犬の牙の如く相臨み、天下の要害の地利を秉りて、本幹を強くし、枝葉を弱くするの勢なり、是に於て尊卑明かにし

て萬事各、其の所を得たり、
【字解】吳楚時、孝景帝三年に吳・楚・趙・膠西・濟南・菑川・膠東の七國の反せし時なり、適、謫と通ず、罪なり、陂海、陂は池なり、蕃輔、蕃は藩と通ず、蔽ふなり、護るなり、守りたすくすること、錯、雜るなり、阨塞、要害なり、

臣遷謹記高祖以來、至太初諸侯譜、其下益損之、時令後世得覽形勢、雖彊、要之以仁義爲本、

【講義】臣遷謹みて高祖より以來太初に至るまでの諸侯を記し、其の事跡の大要を布き列べて之を益損す、時に後世をして一覽することを得せしむ、形勢、彊しと雖、之を要するに仁義を以て本と爲すなり、

【字解】譜、其下、譜は布き列ぶるなり、其下は諸侯王の下なり、事跡の大要を諸侯王の下に布き列ぶること、

說明

第五行 第一段五至高祖即位の第五年、第二段、此年に齊王韓信徙されて楚王となり、その元年、反を謀りて廢せられしことを記す、第五段二は齊王韓信の第二年なり、信は此年に楚に徙さる、第十三段二は淮南王英布の第二年、第十四段は燕王盧縮の元年、第十五段は趙王敖の元年、敖は張耳の子、第二十一段は梁王彭越の元年、第二十六段四は代の韓王信の第四年、第二十七段は長沙王吳芮の元年、

年元祖高	楚	二	城彭都	四	三
	齊		菑臨都	國相故年元信王初	
	荆		吳都		
	淮		春壽都	年元布英王武王初丑乙月十	
	燕		薊都		
	趙		邯鄲都	年四在薊年元耳張王初	
	梁		陽淮都		
	陽		陳都		
	淮				
	代			邑馬都年元信王韓初月一十	三
	沙				二
	長				

九	八	七	六	五
朝來四	三	二	也弟祖高是交年元交王初午丙月正	廢反年元王楚爲徒信王齊
朝來四	三	二	子祖高肥年元肥王惠悼王初子甲月正	楚徙二
四	三	二	年元賈劉王初午丙月正	
朝來六	五	四		二
五	四	三		年元縮廬王初子壬月九
元意如王隱王初	廢四	三		子耳敖年元敖王
朝來五	四	三		年元越彭王初
王代代攻奴匈四	三	二		年元喜王初
				郡爲除國奴匈降四
四	三	二		年元臣王成
				薊年元芮吳王文王初未乙月二

四	三	二	年元惠孝
朝來一十	十	朝來九	八
朝來一十	十	朝來九	八
五	四	三	二
朝來六	五	四	三
五	四	三	二
朝來四	三	二	王幽為是年元友名趙於徙王陽淮
六	五	四	三
六	五	四	三
三	二	年元同王哀	八

二十	一十	十
七	六	朝來五
七	六	朝來五
丑辛月十國吳為更	郡為除國殺布英為六	朝來五
二	子祖高長年元長王厲午庚月二十	誅反朝來七
王靈王初午甲月三	七	朝來六
死四	三	二
二	子祖高恢年元恢王初午丙月三	誅反朝來六
二	趙徙子祖高友年元友王初寅丙月三	
二	子祖高恒年元恒王初子丙月三	都中都代置後漢歸亡國其并
七	六	朝來五

七	六	五	四	三	二	年元後
八十	七十	朝來六十	五十	四十	三十	二十
八	七	六	五	四	三	二
八	七	六	五	朝來四	三	二
十二	九十	朝來八十	七十	六十	五十	四十
八	七	六	朝來五	朝來四	三	二
八	七	朝來六	五	朝來四	三	二
八	七	六	五	四	三	二
八	七	朝來六	五	四	三	二
八	七	六	五	四	三	二
九十三	八十三	七十三	六十三	五十三	四十三	三十三
八	朝來七	六	五	四	三	二
一十二	十二	九十	朝來八十	七十	六十	五十
三十二	二十二	一十二	朝來十二	九十	八十	七十
八	七	六	五	四	三	二
二十二	朝來一十二	十二	九十	朝來八十	七十	六十
五	四	三	二	年元登王恭	薨七十	六十
除國後無薨朝來一十二	朝來十二	九十	八十	七十	六十	五十

六十	五十	四十	三十
一十	十	九	朝來八
侯陽安故子王厲南淮年元勃王寅丙月四	山衡置初		
侯虛陽故子王惠悼齊年元閻將王孝寅丙月四	後無薨四十	三十	二十
年三十陽城徙喜王南淮	國陽城置復		
侯都安故子王惠悼齊年元志王初寅丙月四	國北濟置復		
侯枋故子王惠悼齊年元光辟王初寅丙月四	國南濟爲分		
侯城武故子王惠悼齊年元賢王初寅丙月四	劇都川苗爲分		
侯昌平故子王惠悼齊年元印王初寅丙月四	宛都西膠爲分		
侯石白故子王惠悼齊年元渠雄王初寅丙月四	墨即都東膠爲分		
二十三	一十三	十三	九十二
侯陵阜故子王厲南淮年元安王寅丙月四	陽城徙四	三	二
四十	朝來三十	朝來二十	一十
六十	五十	四十	三十
郡爲除國後無薨年元福王哀	薨三十	二十	
侯周陽故子王厲南淮年元賜王寅丙月四	國江廬置初		
五十	朝來四十	三十	二十
五十	四十	三十	二十
四十	三十	二十	一十

六	五	子太立巳乙月四四
薨朝來三	二	侯陸平故子王元年元禮王文
四	三	朝來二
三	二	年元王山衡徙賜王江廬北濟徙二十
三	朝來二	年元壽王懿
六十二	五十二	四十二
年元胡王武	王貞爲是薨三十	年二十北濟徙勃王山衡
		郡爲
四十	三十	二十
四	三	二
三	二	帝武孝爲是年元王初巳乙月四
三	二	王易爲是年元王都江爲非王南淮亥乙月六都江置初
四十	朝來三十	二十
年元國定王	薨六十二	五十二
五	王肅敬爲是年四趙徙祖彭王川廣	郡爲
五	四	三
	郡都信爲除國趙徙四	三
四	三	二
		郡爲除國山衡徙二十
八十二	七十二	六十二
國江臨置復		郡爲除國後無薨三
		都江徙三
		郡爲
一十	十	九
朝來五	四	三

三	二	年元前景孝
誅反一十二	朝來十二	九十
王恭爲是年元魯徙王陽淮亥乙月六	國魯置復楚分	
一十	十	九
一十	十	九
三十二	二十二	一十二
川菑徙一十	朝來十	九
誅反一十	十	九
王懿爲是年一十川菑徙志王北濟誅反賢一十	十	九
子帝景年元端王于亥乙月六誅反一十	十	九
誅反一十	十	九
誅反二十四	一十四	十四
一十	十	九
四十二	三十二	二十二
誅反六十二	朝來五十二	四十二
朝來二	子帝景年元德王獻王初寅甲月三	國間河置復
朝來二	子帝景年元祖彭王寅甲月三	都信都川廣置初
子帝景年元勝王靖亥乙月六	奴盧都山中置初	
一十	十	九
朝來五十二	朝來四十二	三十二
二	子帝景年元闕王初寅甲月三	都江都江臨置初
二	子帝景年元非王初寅甲月三	國南汝置初
二	魯徙子帝景年元餘王初寅甲月三	國陽淮置初
八	七	六
二	子帝景年元發王定寅甲月三	國沙長置復

六	五	四	三
七	朝來六	五	四
一十	十	九	八
十	九	八	朝來七
十	九	八	七
薨三十三	二十三	一十三	十三
八	七	六	五
一十二	十二	九十	八十
一十	十	九	八
五	朝來四	三	二
十	九	八	七
一十二	十二	朝來九十	八十
八	七	六	朝來五
二十	一十	十	九
二十	一十	十	九
五	四	三	二
一十	十	朝來九	八
四	三	二	子帝景年元乘王哀巳丁月三
二	子景孝年元舜王憲王初巳丁月三	國山常置復	
薨朝來五十三	四十三	三十三	二十三
王初戌丙月五	國川濟爲分		
王初戌丙月五	國東濟爲分	郡南爲除國殺自宮爲垣孺廟寢坐四	
王初戌丙月五	國陽山爲分		
王初戌丙月五	國陰濟爲分		
八十	七十	六十	朝來五十
二十	朝來一十	朝來十	九

二	年元中	廢子太丑乙月一十七
三	朝來二	年元道王安
七	朝來六	五
六	五	四
六	五	四
朝來九十二	八十二	七十二
四	三	二
朝來七十	朝來六十	五十
七	朝來六	五
子帝景年元寄王康王初巳乙月四	國東膠置復五	子太爲巳丁月四四
六	五	四
七十	六十	五十
四	三	二
朝來八	七	六
朝來八	七	六
子帝景年元越王惠巳乙月四	國川廣置復	
七	六	朝來五
陽濟都河清置初		
朝來一十三	十三	朝來九十二
三	二	王爲廢子太子帝景年元榮王閔王初丑乙月一十
四十	三十	二十
八	七	朝來六

三	二	年元光元	六	五	四	三
朝來九十	朝來八十	七十	六十	五十	四十	三十
三十二	二十二	一十二	十二	九十	八十	七十
二十二	一十二	十二	九十	八十	七十	六十
卒二十二	一十二	十二	九十	八十	七十	六十
二十	一十	朝來十	九	八	七	六十
十二	九十	八十	七十	六十	五十	四十
三十三	二十三	一十三	十三	九十二	八十二	七十二
三十二	一十二	一十二	朝來十二	九十	八十	七十
七十	六十	朝來五十	四十	三十	二十	一十
二十二	一十二	十二	九十	八十	朝來七十	六十
三十三	二十三	一十三	十三	九十二	八十二	七十二
十二	九十	朝來八十	七十	六十	五十	四十
四十二	三十二	二十二	朝來一十二	十二	九十	八十
四十二	三十二	二十二	一十二	十二	九十	八十
五	四	三	二	年元王繆	二十	一十
朝來三十二	朝來二十二	一十二	十二	九十	八十	七十
				郡爲除國後無薨二十	一十	十
四十	三十	二十	一十	十	朝來九	八
五	四	三	二	年元襄王平	薨七	六
				郡爲八	陵房遷廢傳中	五
三十	二十	一十	十	九	八	七
				郡爲除國後無薨九	八	七
年元義王	九十二	八十二	七十二	六十二	五十二	朝來
朝來四十二	朝來三十二	二十二	一十二	十二	九十	八十

三	二	年元元建武孝	三	二	年元元後	一
三十	朝來二十	一十	十	九	八	七
七十	朝來六十	五十	四十	三十	二十	一十
六十	五十	四十	三十	二十	一十	十
六十	五十	四十	三十	二十	一十	十
六	五	四	三	二	年元延王頃	九
四十	三十	二十	一十	朝來十	九	八
七十二	六十二	五十二	四十二	三十二	朝來二十二	二十一
七十	六十	五十	四十	三十	二十	一十
一十	十	九	朝來八	七	六	五
六十	五十	四十	三十	二十	一十	十
七十二	朝來六十二	五十二	四十二	三十二	二十二	二十一
四十	三十	二十	一十	朝來十	朝來九	八
八十	七十	六十	五十	四十	朝來三十	二十九
八十	七十	六十	五十	四十	朝來三十	二十九
一十	十	九	八	七	六	五
朝來七十	六十	五十	四十	三十	二十	一十
十	朝來九	八	七	六	五	四
八	七	六	五	四	三	二
六	五	四	三	二	子王孝年元買王恭	一
殺射坐七	六	五	四	三	二	子王孝梁年元明
七	六	五	四	三	二	子王孝梁年元離彭
七	六	五	四	三	二	子王孝梁年元定
					除國後無薨二	子王孝梁年元識不
四十二	三十二	二十二	一十二	十二	九十	八十
朝來八十	七十	六十	五十	四十	三十	二十

二	年元狩元	六	五	四	三
八	七	六	五	朝來四	三
朝來八	七	六	五	四	三
	除國殺自反二十三	一十三	十三	九十二	八十二
三十二	二十二	朝來一十二	十二	九十	八十
一十三	十三	九十二	八十二	七十二	六十二
九	八	七	六	五	四
四十三	三十三	二十三	一十三	十三	九十二
八十二	七十二	六十二	朝來五十二	四十二	三十二
除國殺自反七	六	五	四	三	二
故以國安六置	殺自反三十四	二十四	縣二國削罪有安一十四	十四	九十三
五十三	朝來四十三	三十三	二十三	一十三	十三
五	四	三	二	年元堪王剛	薨四
六十	五十	朝來四十	三十	二十	一十
四十三	三十三	二十三	一十三	十三	朝來九十二
五十二	四十二	三十二	朝來二十二	一十二	十二
六十	五十	四十	三十	二十	一十
四十二	三十二	二十二	一十二	朝來十二	九十
朝來二十	一十	十	九	八	七
朝來八	七	六	五	四	三

二	年元朝元	六	五	四
二	年元注王襄	薨二十二	一十二	十二
二	年元光王安	薨六十二	五十二	四十二
七十二	六十二	五十二	四十二	三十二
郡爲除國後無薨五	四	三	二	年元昌次王厲
七十	六十	五十	朝來四十	三十
五十二	朝來四十二	三十二	二十二	一十二
三	二	年元建王靖	薨五十三	四十三
朝來八十二	七十二	六十二	五十二	四十二
二十二	一十二	十二	九十	八十
年元建王	六十二	五十二	四十二	三十二
八十三	七十三	六十三	五十三	四十三
	郡爲除國殺自行獸禽坐四十二	三十二	二十二	一十二
九十二	八十二	朝來七十二	六十二	五十二
三	二	年元害不王恭	朝來六十二	五十二
十	九	八	七	六
八十二	七十二	六十二	五十二	四十二
九十	八十	七十	六十	五十
朝來十	九	八	七	六
八十	七十	六十	五十	朝來四十
六	五	四	三	二
二	年元庸王康	七十二	六十二	五十二

三	三十
二	七十二
七	七
十五	十五
八	八
五	五
六十	六十
十二	十二
六十	六十
四十五	四十五
二十	二十
五十三	五十三
十	十
一十三	一十三
二十	二十
五十三	五十三
八十二	八十二

高祖功臣侯年表第六

太史公曰、古者人臣功有五品、以德立宗廟、定社稷、曰勳、以言曰勞、用力曰功、明其等曰伐、積日曰閱、封爵之誓曰、使河如帶、泰山若厲、國以永寧、爰及苗裔、始未嘗不欲固其根本、而枝葉稍陵夷、衰微也、

【講義】太史公曰く、古は人臣の功に五等あり、即ち第一は徳を以て宗廟を立て社稷を定めしを勳といふ、第二は言説を以て君王を導きしを勞といふ、第三は力を用ひしを功といふ、第四は功の等級を明かにせしを伐といふ、第五は日を積むこと久しかりしを閱といふ、又爵を封ずる時の誓に曰く、黄河をして帶の如く、泰山をして砥石の如くならしめて、國以て永く安かに、爰に遠き子孫に及ばむと、此の如く始めは未だ嘗て其の根本を固くせむことを欲せずんばあらず、而るに其の枝葉に至りては何時しか次第に衰微せり、歎すべきの至りなり、

【字解】使河如帶、泰山如厲、河は黄河なり、厲は砥石なり、功臣の子孫をして無窮に其の國を傳へしめむとての誓言なり、言は河と泰山とが若し帶厲の如くならば、其の時こそ國乃ち絶ゆれ、されど此の

如きことは絶對に無し、河泰山のあらむかぎり長久なるべしとの意なり、苗裔、遠き子孫なり、陵夷、次第に衰ふること、

余讀高祖侯功臣、察其首封所以失之者、曰、異哉所聞、

【講義】余高祖の功臣を侯となし、記事を読み、其の首の封爵と其の子孫が之を失へる所以とを察しぬ、曰く、前に開ける所に異なるかな、歎すべきの至りなりと、

書曰、協和萬國、遷于夏商、或數千歲、蓋周封八百、幽厲之後、見於春秋、尚書有唐虞之侯伯、歷三代、千有餘載、自全以蕃衛天子、豈非篤於仁義、奉上法哉、

【講義】尚書の堯典に曰く、萬國を和げ合すと、夏商の世に遷るまでには、或は數千歳を経つらむ、蓋し其

の後周にては八百の諸侯を封ぜり、幽厲王の後は春秋の書に見れぬ、尚書には唐虞の侯伯あり、之が三代を歴て、千有餘歳の間、自ら全くして天子を護衛せり、此の如きは豈に仁義に篤く上の法令を奉ずるにあらずや、誠に歎稱すべきなり、

【字解】書、尚書の堯典なり、蕃衛、藩衛に同じ、漢興、功臣受封者、百有餘人、天下初定、故大城名都散亡、戶口可得而數者、十二三、是以大侯不過萬家、小者五六百戶、後數世、民咸歸鄉里、戶益息、蕭曹絳灌之屬、或至四萬、小侯自倍、富厚如之、子孫驕溢、忘其先、淫嬖至太初、百年之間、見侯五、餘皆坐法隕命、亡國耗矣、罔亦少密

焉、然皆身無兢兢於當世之禁云、

【講義】漢興りて功臣の封を受けし者百有餘人なり、天下初めて定まりし故に、大城名都は已に戰禍の爲に散亡し、戸數人口の得て數ふべき者は十分の二三となりぬ、是を以て大侯に封せられたる者も一萬家に過ぎず、小なる者は僅に五六百戸なりき、後數世にして人民堵に安んじて其の郷里に歸り、戸數益々蕃息せり、是を以て蕭何・曹參・周勃・灌嬰の徒は或は四萬戸に至り、小侯と雖首封の時に倍し、富の程度も之に適へり、是に於て子孫驕りて分に過ぎ、其祖先の功勞を忘れて嬖人に淫れぬ、漢興りてより太初に至るまで百年の間、侯に封せられしもの數多ありしに、現在に僅に五侯あるのみなり、其餘は皆法に罪せられて命を隕し、國を亡して耗くなれり、法網も亦少密苛酷なり、然れども皆身當世の法禁につゝしむこと無しと云ふ、

勃なり、灌は灌嬰なり、自倍、其の首封の時の戸數に倍するをいふ、驕溢、おごりて分に過ぐる也、淫、嬖、嬖人にみだるゝなり、見侯五、見は現なり、太初の時に現存せる五侯なり、即ち平陽侯曹宗・曲周侯酈終根・陽河侯齊仁・載侯祕蒙・穀陵侯馮偃是なり、一説に五は六の誤にして、江鄒侯靳石を逸せりと、坐、法、坐は罪せらるゝなり、隕、命、隕は殞に同じ、死なり、落なり、耗、虚なり、罔、亦、少、密、罔は法網なり、少密は細密にして苛酷なること、兢兢、つゝしむさまなり、
居今之世、志古之道、所以自鏡也、未必盡同、帝王者、各殊禮而異務、要以成功爲統紀、豈可緝乎、觀所以得尊寵、及所以廢辱、亦當世得失之林也、何必舊聞、

【講義】今の世に居りて古の道を識せば、自ら當代の存亡の跡を鏡に掛けて見るが如く明白なり、されど人未だ盡く帝王に同からざれば、各、分に應じ禮を

殊にし務を異にせざるべからず、唯要は成功を以て大綱と爲す、豈に古と混同すべしや、而して今の人臣の尊寵を得る所以は必ず忠厚に由るなり、廢辱を被る所以は驕淫に由るなり、此の二者を觀察すれば現在の興廢も亦當世得失の林叢たるなり、何ぞ必ずしも舊聞をのみ恃まむや、

所不盡本末、著其明、疑者闕之、後有君子、欲推而列之、得以覽焉、

【講義】是に於て興廢の終始を謹みて其の文を表し見しぬ、頗る本末を盡さざる所あらむ、されど其の明かなる者を著はして、其の疑はしき者は闕けり、後に君子ありて當時の事跡を推して布列せむと欲せば、亦以て一覽に値することを得む、

年表説明

第一行 高祖・孝惠等の帝名の右に記せる數字は其帝の在位年數なり、此年表を見る爲に豫め承知しておくべきは左の諸點とす、
孝文二十三 帝は即位元年より第十六年迄は年次を以て其年を稱し、第十七年目に後元元年と稱し後元七年に崩じ、在位二十三年とす、
孝景十六 帝は即位第七年までは年次を以て其年を稱し、第八年目に中元元年と稱して第六年に至り、次年に後元元年と稱して其三年に崩じ、在位十六年なり、
建元云々 孝武帝の建元元年より元封六年まで三十六年なり、其年號及び年數は建元六年、元光六年、元朔六年、元狩六年、元鼎六年、元封六年なり、
太初元年より後元二年まで十八年なり、其年號及び年數は太初四年、天漢四年、太始四年、征和四年、後元二年なり、
第二行 第三段の「七」は、平陽侯曹參が高祖の朝に於ける在位年數なり、在位年數の左右には高祖の六年十二月が曹參の元年なるを記す、

第四段の「五」は、孝惠の朝に於ける曹參の在位年數なり（孝惠の六年は靖侯密の元年なれば曹參の在位年數は五年なり）、「二」は孝惠の朝に於ける密の在位年數なり、
 第五段の「八」は高后の朝に於ける密の在位年數なり、
 第六段の「十九」は孝文の朝に於ける密の在位年數なり、「四」は孝文の朝に於ける簡侯奇の在位年數なり、
 第七段の「三」は孝惠朝に於ける簡侯奇の在位年數なり、「十三」は夷侯時の孝惠朝に於ける在位年數なり、他は之に准じて知るべし、
 第九段の「二」は功臣の位次にして第二位に在るを云ふ、
 表中に數字以外に太字にて記せるは國都を此地に遷せることを記せるなり、

清陽	信武	平陽	國名
千擊將至以 一入霸中 百羽漢上涓 戶功以爲從 侯將騎起 三軍耶豐	布車五羽尉胸以 陳騎千別定入中 稀將三定三涓涓 軍百江秦以從起 攻戶陵擊騎起 黥以侯項都宛	侯右相軍至以 萬丞出入霸中涓 六相征漢上涓 百爲齊以侯從起 戶平魏左以將沛 陽以丞將沛	侯 功 高 ^十 祖 ^二 孝 ^七 惠 高 ^八 后 孝 ^二 文 ^三 孝 ^十 景 ^六 侯 第
年侯七月六年 陳平元	年新申七二月六年 欽蕭元侯甲十	年曹七申二月六年 參元侯甲十	
七	七	國相爲五年二其 年窟靖十六 元二侯月年	
八	年亭五夷六 元侯年	八	
年疆七哀元 元侯年	三	十九	
年仇十孝八 元侯年	奪國十八侯後 侯人亭元 國過坐三 除律事	年奇簡四後 元侯年	
元不四哀五 年害侯年		年時三夷四 元侯年	
十二		十三	
七 後國除 不害 元光二 無		年豐十恭五元 元侯年光 年崇十六三 元侯年鼎 國死太坐三 除子二侯年征 宗年	元太六建 二初元至 年元三二 二十六年 十八年封
十四	十一	二	

曲逆	博陽	廣平	廣嚴	陽陵	汝陰
五奇護武王以 千計軍爲二故 戶定中郡年楚 天尉尉初都 下出遷從尉 侯六爲修漢	殺榮以以以 卒陽都刺舍 追絕尉客人 功甬擊將從 侯道項入起 擊羽漢碭	侯項入至以 四羽漢霸舍 千鍾以上人 五離將爲從 百味軍耶起 戶功擊中豐	二燕入至以 千趙漢霸中 二得以上涓 百將騎爲從 戶軍將連起 侯定放沛	六齊屬將陽以 百丞淮入至舍 戶相陰漢霸人 侯定上從 二齊三爲起 千爲秦魏橫	僕九惠下爲爲以 百魯入滕太令 戶元漢公僕史 常侯中竟常從 爲六至定奉降 太千孝天車沛
年侯七月六年 陳平元	年侯七月六年 陳濼元	年侯七月六年 薛歐元	年侯七月六年 召毘元	年侯七月六年 傅寬元	元侯七月六年 夏侯嬰
相左七年其 丞爲五	七	七	七	元侯五隨六 年靖頃年	七
八 孝爲右其 文承丞相後 二年相專	八	年山八靖元 元侯年	八	八	八
年買二恭三 元侯年	十三後 元侯三年元	十三後 元侯三年元	年勝一戴二 元侯年	元侯十年十 年則四恭五	年窳八夷九 元侯年
年慳十簡五 元侯年	五	五	國夷七至侯十 除無年十三元恭	九	元侯八年十 年賜八恭六
四 年元何侯年五	除罪國四年前 始封塞年有侯五 復五年	絕罪有八年二 棘平中		年偃三年前 元侯四	十六
十二	除罪國二年後 始元有年元	年侯復中 澤封五節年		十三	
十 除妻坐略人 藥市國		相丞爲十年十 罪前稱淮符元 國認臣南元期 除問在王年四 護三財元 護物受元侯		十八僂元 國南王坐狩元 除謀與元侯 反淮	元侯七二元 年頗年光
四十七	十九	十五	二十八	十	八

射陽	留	建成	周呂	堂邑
功破項羽令共兵 封子伯有尹擊初 射羽纏郢漢秦起 陽纏解於王爲與 侯嘗難鴻與楚諸 有以門項左侯	侯常漢與秦國以 萬計王項王言韓 戶謀請羽恐上申 平漢之降張徒起 天中郡解旗下下 下地爲上志韓郢	之天呂之漢以以 爲下宣還王客呂 建已王豐入從后 成平太沛漢擊兄 侯封上奉而三初 釋皇衛釋秦起	定復解先侯以以 天發彭入還客呂 下兵城碭三秦入 功佐往漢秦入初 侯高從王漢漢爲 祖之之兵	元八爲浙死柱將以 王百王江屬國屬自 十戶壯都漢四項定 二復息漸定歲梁東 年相侯自豫項爲陽 楚千立章羽楚爲
七 姓纏丙六 劉元午年 賜項月	年侯七丙六 張良元文正 成月	之康七 元侯丙年 年釋戌正	年呂三令月六 澤武丙年 元侯戌正 元酈封子九 年侯四台年	年侯七 陳嬰元 甲申安
二 罪子纏三 國唯卒年 除有嗣侯	七	二 年元則五 罪有	七 罪有	七
八	二 年元疑不 年三	六 年元疑不 年三	四 年元疑不 年三	四 年元疑不 年三
相爲四尉爲其 丞三太一	且死楚內謀與 國贖爲殺門不 除爲當故大疑	四 夫坐五年 內史殺門不 除爲當故大疑	四 夫坐五年 內史殺門不 除爲當故大疑	四 夫坐五年 內史殺門不 除爲當故大疑
九 年元疆侯年三中	罪一有 陽武 元侯第七 年嘉坐 年勝八	罪一有 陽武 元侯第七 年嘉坐 年勝八	罪一有 陽武 元侯第七 年嘉坐 年勝八	罪一有 陽武 元侯第七 年嘉坐 年勝八
絕六罪有 元侯汝爲孫封二元 年侯侯監九賢嬰年光 除罪行侯五元 國賊賢年朔	年德十侯五元 元六建年朔	年德十侯五元 元六建年朔	年德十侯五元 元六建年朔	年德十侯五元 元六建年朔
九	五	四	四	四

穎陰	舞陽	絳	曲周	鄼
項淮軍食君至以 籍南屬邑入霸中 侯及淮以漢上涓 五下陰車定爲從 千邑定騎三昌起 戶殺齊將秦文碭	信封軍漢至以 侯從擊定霸舍 五破項三上人 千燕籍秦爲起 戶執再爲侯沛 韓益將入從	千定擊軍三至以 一泗項入秦霸中 百水羽漢食上涓 戶東守定邑爲從 海嶠隴爲侯起 八關西將定沛	四三定攻以 千秦漢長將 八擊中社軍 百項及以從 戶羽蜀南起 侯定別岐	八法食蜀漢以 千令佐及爲客 戶立上關丞初 宗定中相起 廟諸給備從 侯侯軍守入
元灌懿七丙正六 年嬰侯午月年	噲武七月六 元侯丙年 年樊午正 三相將年其 月國軍爲七	勃武七月六 元侯丙年 年周午正	商景七月六 元侯丙年 年酈午正	元侯七文月六 年蕭何丙年正 相相爲元 國爲九丞年
七	六 子呂元侯七 須年仇年	七	七	二 年元祿侯哀年三
八	八 族誅氏呂坐	八	八	五 年元疑不 年三
相爲四尉爲其 丞三太一	元市荒噲封元 年人侯子樊年 二十三	相爲亮十三丞爲元 丞復二年相右年 元勝六年十 年之條侯二 年夫子封二後 元亞六勃年元	年元寄侯年元 二十三	陽十筑 元子何九罪同元 年延小封有年 年遺場四後 元一侯年元 年元則三侯年五
九 年元疆侯年三中	六 年廣侯七 元宅年 六 除子市荒廣侯五中 國人侯非宅年元	國有丞十三七太年其 除罪相復二年相右年 曲平 元侯子封元後 年堅恭三勃年元	罪九有 堅子纏封中 元靖商三 年侯七他年	罪一有 陽武 元侯第七 年嘉坐 年勝八
絕六罪有 元侯汝爲孫封二元 年侯侯監九賢嬰年光 除罪行侯五元 國賊賢年朔	年德十侯五元 元六建年朔	年德十侯五元 元六建年朔	年德十侯五元 元六建年朔	年德十侯五元 元六建年朔
九	五	四	六	一

汾陰	梁鄒	成	蓼	費
侯定倉以破初 二諸以內秦起 千侯御史入以 八比史堅漢職 百清大守出志 戶陽夫敖關擊	兵初起以謁者 從擊破秦入漢 以將軍擊定諸 二侯功比博陽侯	兵初起以謁者 從擊破秦入漢 以將軍擊定諸 二侯功比博陽侯	以執盾前元年 從起碣以左司 馬入漢為將軍 三以都尉擊項 羽屬韓信功侯	以舍人前元年 起碣以左司 韓信擊項羽 功侯
昌悼七月六年 元侯丙午正 年周午正	儒孝七月六年 元侯丙午正 年武午正	濮敬七月六年 元侯丙午正 年董午正	年蒙侯七月六年 元孔午午年	賀圍七月六年 元侯丙午正 年陳午正
三 元開建哀四年 方平侯年	四 年元最侯年五	年赤七康元 元侯年	七	七
絕四罪有	三	八	八	八
四 年意年前 元侯五	八	八	八	八
十 絕三罪有	二十三	二十三	八 年元臧侯年九	年元常侯共年元 二十三
陽安 八 罪年建孫封中 國有元左二 除元車昌年	十 六	絕六罪有 氏節 年侯復中 赤封五 元康年	十六	年元歷一侯年二 絕罪有八年二元中 年最子集封六中 元侯賀年元 除無四最五後 除後堯年元
	元嬰六頃元元 年齊侯年光 年卅三侯四元 元山年光 國耐附二侯五元 除金坐十山年鼎	元錫三恭四建 年車侯年元 年元朝侯五年三光元 敬通陽與南為年元 國王十二大侯符 除不女成守漢朝二	十四 除得衣南為侯元 冠陵二大期 度車橋太常三年 國不壞下	
十六	二十	二十五	三十	四十一

陽夏	隆慮	陽都	新陽	東武
夏滅軍為起百以 侯茶別侯宛人特 封定以前將 稀代游至元將 為己擊壽年卒 陽破將上從五	以卒從起碣以 連敖入漢項長 有敝都尉擊項羽 功侯	至以趙將起 別入漢將起 武降入漢將起 城王殺龍且三樓 羽軍為王龍且三樓 八軍軍臣葉大殺龍 百忠軍臣葉大殺龍	以漢五年用左 令尹初從功比 堂邑侯千戶	以武王起 悼入陽破秦 軍入陽破秦 將軍入陽破秦 將軍入陽破秦
年竊侯五月六年 元陳午午年	懿哀七月六年 元侯丁未正 年周未正	元丁敬七戊正六 年復侯申月年	元呂胡七壬正六 年清侯子月年	元郭貞七戊正六 年蒙侯午月年
七	七	七	三 年元世侯頃年四	七
八	八	五 年元寧侯趨年六	四	五 年元它侯年六
元侯十二後 年通七年元	六	九 年元成安侯年十	八	三 年元它侯年六
七	七	十四	四 年元善恭五 元侯年	五
國有侯元中 除罪通年元	五	一	五 年譚年中 元七侯三	除國市弄它侯年六
			二十八 除金座侯五元 國耐譚年鼎	
三十四	三十四	十七	八十七	四十一

貫	武彊	都昌	棘蒲	汁那
以越隊將破秦入漢定三秦以都尉擊項羽、	以舍人從至霸上、以騎將入漢、還擊項羽、屬丞相、擊功、用將、軍、擊、黥、布、侯、	卒先降翟王、	以舍人前元年、	故有定五從以、
元呂齊二庚三六 元侯子月年	年莊七庚六 不識元侯月	元朱莊七夷三六 年軫侯子月年	元陳剛七丙三六 年武侯申月年	元雍肅七戊三六 年齒侯子月年
元方恭八 年山五侯年				
七	七	七	七	二 年元巨侯荒年三
八	六 年嬰元 簡七侯年	年率八剛元 元侯年	八	五 八
年赤十煬元 元一侯年	年翟七侯二後 元青年元	年調六夷八 元侯年	十六 國得奇 薨年後 除置反 嗣侯元 後不 子武元	二十三
元侯十年十 年遺二康二	六	年優二夷元 元侯年		年元野二侯年三
十六	十六	年疆五侯三 元辟年		十 年桓 終六中 元四侯年元
元侯十五元 年信六年朔	二十 不御買十丞青元 直史臣五相翟鼎 上大夫等與坐二 湯夫逮史長爲年 除夫湯朱長侯	除後薨辟元中 國無疆年元		二十七 國耐桓 終五元 除金坐 侯年鼎
三十九	三十三	二十三	十三	五十七

河陽	曲城	肥如	南安	海陽
以得入碣以 丞郎漢從卒 相將擊以前 定處項二元 齊功羽隊年 地侯身將起	之將功破定屬執起三以 軍侯項三悼珪碣十曲 擊四羽秦武爲至七城 燕千軍以王二霸人戶 代戶陳都入隊上初將 拔爲下尉漢將爲從卒	城尉初以 侯破從魏 千龍以太 戶且車僕 、及騎三 彭都年	以王三 以河河南將軍漢 王三年降晉陽 以亞將破滅茶 侯九百戶、	以秦入漢定三秦 以都尉擊項羽、 侯千八百戶、
元陳莊七庚三六 年消侯子月年	元靈圍七庚三六 年達侯子月年	元蔡敬七庚三六 年寅侯子月年	元宣莊七庚三六 年虎侯子月年	元搖七齊月六 年毋信庚年三 餘侯子三
七	七	七	七	二 元昭哀三 年襄侯年
八	八	八	八	五 四 年建康五 元侯年
年元信三侯年元	年元捷八侯年元 絕罪有	年成二莊三 元侯年	年戎八共九 元侯年	四 二十三
侯六人坐四 國月責不侯 除奪過償信	年捷恭復三後 元侯五封年元	年奴七侯元	年秋侯四後 元四千年元	二十三
	十三 絕三罪有 、	除後薨侯元 國無奴年	七	年省三哀四 元侯年
	元侯封年中 年捷五恭復五		人坐千元中 免傷秋年元	國無省年中 除後十薨侯六
	年柔三侯二建 元十畢年元			
	賦側不守汝柔年元 國錢用知南坐侯鼎 除爲赤民太爲三			
二十九	十八	六十六	六十二	三十七

宣曲	高苑	昌武	阿陵	棘丘
以卒從起留 騎將入漢定三秦 秦破籍軍燒陽 為郎騎破鍾離 昧軍固陵侯六 百七十戶	初起以舍人從 入漢定三秦以 中尉破籍侯千 六百戶比斥丘	初起以舍人從 以中郎入漢定 三秦以中郎將 擊十戶侯比其 侯	以連敖前元 從單父以塞疏 入漢還定三秦 屬悼武王以都 尉擊籍功侯	以執盾起前 元漢治粟內史 入漢以治魏郡 侯擊定西魏地 功
元丁齊七戊七六 年義侯 戌月年	元丙制七戊七六 年信侯 戌月年	年單七靖月六 審信庚年 元侯寅七	元郭頃七庚七六 年亭侯 寅月年	年元襄七侯年六
七	年得七簡元 元侯年	五 元如 年意 侯年	七	七
八	八	二 八	八	四 除伍為奪侯四 國仕侯襄年
十 年通 元侯一	十五 年武 年侯六	二十三	二 年歐 元侯三 二十 一	
除四罪有 年通發封年中 元侯復五 除罪襄通年中 國有侯六	十六	十 年成 元侯中 買康四	元勝一年前 年客侯二 絕八罪有 年居侯年中 元廷靖六	
	元侯二元建 年信 年元	元侯十五元 年得 年光	元侯十六元 年則一年光	
	國奪車入坐侯三建 除侯間屬出信年元	國死二坐年元 除并旬傷侯朔 市內人得二	除金坐十侯四元 國耐七則年鼎	
四十三	四十一	四十五	二十七	

安國	臺	斥丘	東茅	絳陽
于水孝因入南威以 雍中惠從漢陽將客 侯及魯戰守從別從 五堅元不豐至定起 千守出利上霸東豐 戶豐淮奉東上郡以	軍軍轉都用以 擊實擊討隊舍 燕功臨擊率人 侯江籍入從 以屬籍漢起 將將死以碭	斥漢擊敵以以以 丘中破為亞左舍 侯討籍東將司人 千擊武郡攻馬從 戶布城都籍入起 為尉起漢豐	將茶尉漢霸以以 軍侯擊定上舍 益捕項三以入 邑韓羽秦二從 千信破以隊碭 戶為臧都入至	入越將從起留 臧茶侯七三秦擊 十戶從攻馬邑 及布
元王武七甲八六 年陵侯 子月年	元戴定七甲八六 年野侯 子月年	元唐懿八丙八六 年厲侯 辰月年	元劉敬七丙八六 年釗侯 辰月年	年無七齊月六 害元 侯戊年七
相丞右七為年六其	七	七	七	七
七 年元忌 侯哀年八	八	八	八	八
一				
年元游二侯終年元 二十三	三 年元才 侯年四	年龍八恭九 元侯年 十三 元侯六後 年賢二年元	年元吉二侯年三 除爵十吉年十 國三奪侯六	元勃三恭四 年齊 侯年 十六 元侯四後 年祿四年元
十六	二 除國反才侯年三	十六	三 國有出祿年前 除罪界坐侯四	
元辟安二三元建 年方侯十月年元 年方 侯三元 元 定年符 除金坐 侯五元 國耐八定年鼎		元侯二二元 年尊十年鼎 五 除金坐 侯五元 國耐三尊年鼎		
十二	三十五	四十	四十八	四十六

北平	荊成	安平	辟陽	樂成
百相計相守至以 戶十相從得霸客 四四趙陳上從 歲歲相餘為起 千淮侯為常陽 三南為代山武	三敢為約侯度陽陽定至以 百離信分軍平絕擊三霸舍 戶上戰鴻襄陰兩項秦上人 侯不溝國遇道羽食侯從 三利以楚淮從軍邑入起 千不縲漢陰出榮池漢沛	功有年以 侯功初謁 二秋從者 千舉定漢 戶蕭諸王 何侯三	侯楚歲呂以 食十后舍 其月孝人 從呂惠初 一后沛起 歲入三侍	成殺尉定中以 侯龍擊三為中 千且籍秦騎將 戶更屬侯以入 為灌都漢 樂嬰都漢
元張文七丁八六 年蒼侯丑月年	元周尊七甲八六 年縲侯子月年	年千敬七月六 秋侯甲年八 元譚子八	年食幽七月六 其侯甲年八 元審子八	元丁節七甲八六 年禮侯子月年
七	七	二 年嘉簡三孝 元侯年惠	七	七
八	八	七 年應八 元侯年	八	八
二十 三	十 元侯年十 年嘉恭一 十二	十三 元侯年十 年寄煬四 十	二 年元平二侯年四 十	元馬四夷五 年從侯年 十八 元侯年後 年客一武七
十 中元侯四中 絕年午年元	五 年拾元康六 元侯年侯年	十五 年但年後 元侯三 一	除反二侯三 國坐年	十六
年元恭四元 元侯年鼎 元侯三坤元元 年仁山年封 除道逆祝二母仁年征 國無大坐十和 國無大坐十和	元侯十元元 年疆二年期 國嘉拾坐二元 除子非七父年狩	市臣十八坐元 國盡南通王與狩 除力書遺女淮元 弄稱淮陵南年	元侯二二元 年義二年鼎 十五 除奔不五坐年元 國市道利侯鼎五	元侯二二元 年義二年鼎 十五 除奔不五坐年元 國市道利侯鼎五
八十三	四十九	六十一	五十九	四十二

陽河	復陽	平臯	厭次	高胡
戶定漢以 功諸以中 比侯郎謁 高侯中者 胡侯起從 侯百起從	千司將以 戶馬軍卒 擊入入從 項漢起 籍以薛 侯以右	八戴姓碼項 十侯為郡官 戶彭劉長漢 祖氏初六年 五功從六年 百比賜	侯都從以 尉起慎 守留將 廣入前 武漢元 功以年	侯籍入以 千以漢卒 戶都都起 定尉尉起 燕擊里
年侯齊三甲十七 元哀子月年	元陳剛六甲十七 年霄侯子月年	元劉揚六癸六 年它侯亥月年	元元七中六 年項侯年	年乞陳七中六 元夫侯年
七	七	四 年遠恭五 元侯年	七	七
八	八	八	八	八
二十 三	十 元侯年十 年嘉恭一 十二	二十三	年元賀五侯年元	四 除後薨程殤五 國無嗣侯年
十 中元侯四中 絕年午年元	五 年拾元康六 元侯年侯年	年光十節元 元侯年侯年		
年元恭四元 元侯年鼎 元侯三坤元元 年仁山年封 除道逆祝二母仁年征 國無大坐十和 國無大坐十和	元侯十元元 年疆二年期 國嘉拾坐二元 除子非七父年狩	元侯二元建 年勝十年元 除金坐侯五元 國耐勝年鼎		
八十三	四十九	百二十一	二十四	八十二

朝陽	棘陽	涅陽	平棘	羹頡
以舍人從起薛 以連敖入漢以 都尉擊項羽後 攻韓王信侯千 戶	以卒從胡陵入 漢以郎將迎左 丞相軍以擊諸 侯侯千戶	以騎士漢王二 年從出關以郎 將擊斬項羽侯 千五百戶比杜 衍侯	以客從起亢父 斬章邯所署蜀 守用燕相侯千 戶	以高祖兄王子 擊反韓信從 軍擊中將信 為郎擊高祖 嘗有罪高祖 封時有羹頡 為羹頡侯故
七年三月 齊侯寅 華侯寄	七年七月 杜侯元 莊侯元	七年七月 呂侯元 勝侯元	七年七月 趙侯元 六年七月 侯元	七年七月 侯元 六年七月 信侯元
七	七	七	七	七
元文八文 元侯年	八	八	七 侯八年 元辟年	元信有年 罪一削有年 爵為一 關級內
十三年十 元侯四	五 侯年 質六 元侯年	四	五 侯六年 疆侯有辟年	侯關級爵罪信元 內為一削有年
十 十六	十八 十六	四 侯當子實子莊五 國為不非成侯年	除新罪疆侯六 國鬼有辟年	侯關級爵罪信元 內為一削有年
十三 二元侯年朝 國法書人坐侯 除罪枉上教當年朝	元武九懷四元 元侯年光 侯五年元 除後羹武年朝 國無七			
六十九	八十一	百四	六十四	

深澤	栢至	中水	杜衍	赤泉
以趙將漢王三 年降屬淮陰侯 定趙齊楚以擊 平城侯七百戶	以駢憐從起昌 邑以說衛入漢 以中尉擊籍侯 千戶	以中郎騎將漢 王元年從起好 時以司馬擊龍 且後共斬項羽 侯千五百戶	以郎中騎漢王 三年從起下邳 屬淮陰從灌嬰 共斬項羽侯千 七百戶	以郎中騎漢王 二年從起杜屬 淮陰後從灌嬰 共斬項羽侯千 九百戶
八月十年 齊侯癸丑 將五侯趙元	七年七月 元許靖六戊七 年溫侯辰月年	七年七月 呂侯元 馬董元	七年七月 元王莊六己正 年翳侯西月年	七年七月 元楊莊六己正 年喜侯西月年
七	七	七	七	七
絕一奪	絕罪一有年二 復三 如六封年	八	五 共六 年福侯年	一奪元 復二年絕年
三年復年 元將復四	元夜四封年十 元侯年	元假九夷十 元侯年	元臣四侯五 元市年	元侯一十年十 元定二
後二年元 元侯年	元頭戴二後 元侯年	元肩十侯年十 元一青共三	元翕十年十 元二侯二	元十二
三年二侯年 元循二侯年三	元十六 絕七罪 年胡夷頭年中 元侯子封五	元十六	元十二 元侯翳年後有 年鄧子復元罪 元疆三封元絕	元害三侯四 元無罪有 元無封年中 元害五侯復五
十六 國無胡夷五元 除後羹侯年朝	元如七共二元 年安侯年光 元侯十三元 年福三年狩 國有侯二元 除罪五福年鼎	元德五端六建 元侯年元 年成一侯元元 元宜年光 除金坐廿宜五元 國耐三成年鼎	元國九侯四元 元定年光 元國十侯四元 元有二年狩	元七 除罪害侯二元 國有無年光
九十八	五十八	百一	百二	百三

宋子	藁	磨	武原	恂
以漢三年以趙 羽林將初從擊 定諸侯功比磨 侯五百四十戶	高帝七年為將 軍從擊代陳豨 有功侯六百戶	以趙衛將軍漢 王三年從起盧 奴擊項羽救倉 下為將軍攻臧 荼有功侯千戶	漢七年以梁將 軍初從擊韓信 陳豨黥布功侯 二千八百戶功 比高陵侯	以燕將軍漢 四年從擊燕王 荼反相告燕王 百國定盧奴千 戶盧相九
元許癸元 年疑元	元陳錯元 年	元程黑元 年	元衛肱元 年	元溫疥元 年
七	二 年嬰元	七	三 年寄元	七
八	五	八	四	八
九 年元九	六 年元	二 年盤元	八	八
十四	十四 年安元	六	二十三	七 年元
八	十六 年元	七	七	十 年元
國物塞坐年中 外買九二 除罪禁	父秋十千得不 年秋侯二元 元七十年爵 國耐秋侯五元 除金坐九十年	除罪竈元中 國有年元	年害三侯四 元不年	國有侯四中 除罪河年元
九十九	百二十四	九十二	九十三	九十一

吳房	彭	疆	清	倚氏
以郎中騎將漢 王元年從下都 擊夏陽以都尉 斬項羽有功侯 七百戶	以卒從起薛以 擊將入漢以都 尉擊項羽代侯 千戶	以客吏初起從 入漢以都尉擊 項羽代侯比彭 侯千戶	以擊將初起從 入漢以漢都尉 擊項羽代侯比 彭侯千戶	以舍人從起豐 入漢以都尉擊 項羽侯二千四 百戶
元楊莊五辛二八 年武侯巳月年	元秦簡五丙三八 年同侯戊月年	元留簡三丙三八 年勝侯辰月年	元空簡五丙三八 年中侯戊月年	元陳敬五丙三八 年趙侯戊月年
七	七	七	七 年聖元	六 年交元
八	八	八	八	八
十二 年去元	二 年執元	十年十 元二侯三	七 年康八 元侯年	二十三
十一	二十一	除罪服年十 國二有侯五	十六	二
十四	年元武二侯年三		十六	二
國有去元後 除罪疾年元	國有十侯元後 除罪一武年元		年右二恭三元 元十侯年狩 元侯四元 年生七年鼎 國耐生六元 除金一坐年鼎	國無年差頃三 除後薨元侯年
九十四	七十	七十二	七十二	五十

安丘	闕氏	共	昌	甯
以屬魏豹起與 以卒從起 以代太尉漢王 三年降為鴈門 守以特將平代 反寇侯千戶	以齊將漢王四 年從淮陰侯起 臨淄擊平城有 王信於平城有 功侯千二百戶	以齊將漢王四 年從淮陰侯起 無鹽定齊擊於 及韓王信於代 侯千戶	以舍人從起 入漢以都尉擊 臧荼功侯千戶	高祖功臣侯年表第六
元張懿五癸七八 年說侯西月年	年解四節月八 政侯壬年六 元侯年十二 年宅一恭二	元羅莊五壬六八 年師侯子月年	元盧圍五戊六八 年卿侯申月年	元魏莊五辛四八 年選侯卯月年
七	絕後無薨	七	七	七
八	不甲	八	八	八
十二 元侯二年十 年奴恭三	年侯十腹恭二 遺四子侯年 元文遺封 年之侯年十 元八勝恭六	年黨六惠七 元侯年 年商八懷五 國無商年後 除後五薨侯四	十四 年通四年十 元侯五	十五 元侯五年十 年連恭六
年執三敬四 元侯年	五年平年前 元侯六	二	年元指三侯年元	年元指三侯年元
元侯十年後 年新三康三	十一	除反侯二 國通年	國有國坐侯四 除罪界出指年	國有國坐侯四 除罪界出指年
元侯十年元 年指八年特	二十八 除金坐侯五元 國耐平年鼎			
六十七	百	百十四	百九	七十八

陸梁	繁	龍	襄平	合陽
詔以爲列侯自 置吏受令長沙 王	以趙騎將從漢 三年從擊諸侯 侯比吳房侯千 五百戶	以卒從漢王元 年起請上以謁 者擊籍斬曹咎 侯千戶	兵初起紀成以 將軍從擊秦 入漢軍定三戰 比平定侯通 成時死事子通 功侯	高祖功臣侯年表第六
年毋侯三丙三九 元須辰月年	年疆四寅一九 瞻元莊月年十	年陳五未九八 暑元敬月年已後	年通侯五丙九八 元紀午月年	年仲侯五丙九八 元劉午月年
元侯年十二 年桑一共二				
七	四 侯一元昫康五 愾云年獨侯年	七	七	王吳爲二濞子仲 頃爲仲故吳以 王代諡尊王子
八	八	六 年元堅 侯年七	八	
十八 年息八侯年後 元慶康三	二十三	六 國奪侯元後 除侯堅年元	二十三	
年元冉十侯年元 元再十六	年元密三侯年四		九 元相康三中 年夫侯年元	
二十八 除金坐侯五元 國耐冉年鼎	十八 國所爲安元元 除殺人國年狩		七 元夷十元元 年百二年朔	
百三十七	九十五	八十四		

東陽	宣平	義陵	離	高京
高祖六年為中 擊大夫以河間守 侯千三百戶、功	不敖定與餘趙兵秦兵 善嗣趙大反為鉅為初 廢其為臣龔常鹿相起 為王歸耳山破合張 侯貫卒漢棄王秦諸耳 高子漢國陳定侯誅	以長沙柱國 侯千五百戶、	元鄧戊四年 年弱寅月	後夫陽守漢為史周 襲死侯榮圍御入苛 侯事以陽取史從起 子御功諸大擊兵 成史比侯夫破以 為大辟堅入秦、
如侯二癸十十 元張巳二一 年相武月年	元張四武四九 年放侯月年	年程侯四丙九九 元吳子月年	起及所絕 失此侯始所	年成侯四丙四九 元周寅月年
七	七	三 年元種 侯年四		七
八	平六信	四 六 失除後薨侯七 諡皆國無種年		八
元侯十年十 年殷五共六 五 元安戴五後 年國三侯年元	宮為十魯以元 侯南五王故年 年元歐侯八哀年六十			二十 絕國繫謀年後 除死反坐五
三 元侯十年十 年疆衰四	九 年元生 侯年三中			年應繩成年中 元孫封元
十三 除後薨侯元建 國無疆年元	七 年元昌侯八年二 元昌侯八年二 元昌侯八年二 元昌侯八年二			年元得不嗣平侯
百十八	三	百三十四		六十 國不圍繕常為平四元 除敬陵治不太坐年狩

堂陽	禾成	慎陽	沛	開封
擊擊免坐軍以以 籍後守擊郎中 侯為復榮籍入涓 八上來陽為漢從 百黨以降惠以起 戶守郎楚侯將沛	斬陳稀侯千九 從以郎中擊代 以卒漢二年初	淮陰侯信反侯 為淮陰舍人告 二千侯、	高祖兄合陽侯 劉仲子、侯	五年初從以中 尉擊燕定代侯 比共侯二千戶、
年孫二未正十一 赤哀月一年 元侯已年	元公二未正十二 年孫孝月二年 耳侯已年	年樂二甲十一 說寅十二 元侯月年	元劉巳一月年十 年濞侯癸二一	元侯一丙十十 年陶辰二一 舍閏月年
七	七	七	國吳濞丑月年十 除王為侯辛十二	元侯年十 年青一夷二
年元德八侯年元	八	八		相丞為七時帝景
二十三	年漸四懷五 元侯年 國無漸年十 除後九薨侯四	二十三		二十三
十三 除罪德年中 國有侯六		十二 元願二靖六中 年之侯年元		九 年侯節三中 元侯年元
		四		七
		年之二元建 元十二買年元 市白二之年元 國金坐侯狩 除藥鑄買五		元侯十五元 年唯年光 除金坐十八侯五元 國耐八唯年鼎
七十七	百十七	百三十一		百十五

中牟	平州	衍	戴	汾陽
以漢二年為燕 漢王四年以燕 相從擊籍還擊 茶以故二千石 將為列侯二千戶	以漢二年為燕 漢王四年以燕 相從擊籍還擊 茶以故二千石 將為列侯二千戶	以漢二年為燕 漢王四年以燕 相從擊籍還擊 茶以故二千石 將為列侯二千戶	以漢二年為燕 漢王四年以燕 相從擊籍還擊 茶以故二千石 將為列侯二千戶	以漢二年為燕 漢王四年以燕 相從擊籍還擊 茶以故二千石 將為列侯二千戶
元單父聖 年父聖	尾昭元滂 年掉	年翟元 元	年彭祖元 元	元斬彊 年
七	七	七	七	七
八	八	年山祇四 元侯年 二 年嘉節六 元三侯年	二年悼元 共三侯年 六	二年解元 共三侯年 六
七 年緡敬八 元五侯年 年根十侯年十 元一終戴二	年元壽一侯戴年二 三 年元人它四侯年五 十五 年元童馬五侯孝年九	二十 三	七年安夷八 元國侯年 十六	二十 三
十六	十四 元侯二後 年味年元	十六	十六	年胡四夷五 元侯年 十二 絕
元侯十五年 年舜年光	二十 二年 罪呵道二坐年元 國馳中行侯狩 除去更馳味五	年疑二侯三建 元不年元	年期侯五元 元安年朝 年元蒙侯五年五 元元後 除道誦坐甲元後 國無說戊月年元	年元石江年五鼎元 年治鄒年五鼎元 國年治行坐月太 除益壽二太為丁初 縱夫大漢太侯四 七年可一十九常石五
百二十五	百十一	百三十	百二十六	九十六

德	下相	陽義	博陽	邳
以代頃王子侯 頃王吳王濞父 也廣濞之弟也	軍堅解兵以 功守軍從客 侯彭以擊從 二城楚破起 千擊丞齊沛 戶布相田用	千從韓大幾離五以 戶擊信夫破味年荆 布還從之及初令 功為至徙陳從尹 侯中陳為公擊漢 二尉取漢利鍾王	軍成隊以 布阜卒卒從起 反有入漢擊豐 定功為擊籍 吳將	侯擊江以 破臨江而為長 布功王及諸漢 千
元侯一庚十二 年劉辰一二年 廣衰月	年令一西十二 耳莊月二年 元侯乙	年靈一寅十 常定月二年 元侯壬	元侯一辛十二 年周卅一月 聚節月	元黃一戊十二 年極莊月二年 忠忠侯戊
七	七	七	七	七
二年通項三 元侯年	八	六年賀侯共年七 二	八年	八年
六	二年慎侯年三 二十二	年元勝六侯哀年七 國無勝年十 除後六薨侯二	八年 元元愾侯年九 十五	年盛十侯年十 元一榮慶二 九年明共五後 元三侯年元
五年元龍侯年六 十一	二 除反侯三三 國慎月年		十二 除級爵愾年中 國一奪侯五	十六
元侯二四元 年何十七年鼎 國耐侯五元 除金一坐年鼎				元侯十五年 年途六年朔 國故縣賣年元 除貴官二途鼎 宅坐元
百二十七	八十五	百十九	五十三	百十一

高陵	期思	穀陵	戚	壯
以元騎 以都司 以破起 以田廢 以橫丘 九城龍 百以且 戶將追 軍籍破 擊至田 布東橫 布	淮南王 布中大 夫有郗 上書告 布友侯 二千戶 布盡殺 其宗族	以卒從 前二年 起柘擊 籍定代 爲將軍 功侯	初起都 尉陽漢 破之因 擊韓擊 信茶項 爲齊別 將軍屬 千軍攻 擊	以楚將 漢王三 年降起 臨濟以 郎中擊 籍陳稀 功侯六 百戶
元侯一丁 年王亥 周園月 年	元侯一癸 年貴卯 赫康月 年	元侯一丑 年谿正 元侯己 年	元侯一癸 年季卯 必園月 年	元侯一丑 年敬正 元侯乙 年
七	七	七	七	七
二 元井惠 年弓侯 年	八	八	八	八
六 年行十 元侯三 年	十三 除後 國無 年十 十	六 年熊共 元侯七 年	三 年班齊 元侯四 年	二十三 年信十 元侯一 年
十一 年元 年	十三 除後 國無 年十 十	十七 年印二 元侯三 年	二十 年	十三 年
二 除國反 年二	二 除國反 年二	二 年解十 元侯五 年	十六 年	十六 年
九十二	百三十二	百五	九十	百一十

成陽	桃	高粱	紀信	甘泉
六年屬 籍年以 百原相 屬從魏 戶尉國 魏起郎 定彭豹 代越豹 侯以反 擊二	劉項千 大以 氏戶謁 從客 親爲者 起定漢 也淮擊 賜陰布 陶王 姓侯以	其死功 侯比列 侯事平 卒使漢 九赤侯 兵約還 百襲嘉 聚和定 戶食以 侯諸列	以中涓 從起豐 以騎將 入漢以 將軍擊 籍後攻 盧縮侯 七百戶	以車司 馬漢王 元年初 從起高 陵屬劉 賈以都 尉從軍 侯
元侯西一 年意定 乙正二 年	年劉一已 襄元安 元侯丁 年	年侯一寅 元侯共 元侯三 年	年陳一辰 倉元臣 元侯王 年	元王辰一 年敬侯 元王六 年
七	七	七	七	六 元莫戴 年搖侯 年
八	八	八	二 年開夷 元侯三 年	八
十 年信十 元侯一 年	九 年侯十 景舍年 帝元哀 年	二十三 年	六 年陽十 元侯六 年	十三 年嫖十 元侯一 年
十六 年	十六 年	十六 年	二 除國反 陽年三	九 除國罪 有嫖侯 年十
除薪罪 侯元建 國鬼信 年元	年申十 元侯建 元侯二 年元期 年爲元 自年	年元勃 侯八年 三光元 死當王 十詔年 元國死 取衡坐 除病金 山詐元	年元勃 侯八年 三光元 死當王 十詔年 元國死 取衡坐 除病金 山詐元	年元勃 侯八年 三光元 死當王 十詔年 元國死 取衡坐 除病金 山詐元
百一十	百三十五	六十六	八十	百六

菌	鄢陵	張	糞棗
以中涓前元 從起單父不 關起擊籍陽 王緒得南布 二千七百戶 侯	以卒從起豐入 漢以都尉擊籍 茶侯七百戶	以中涓騎從起 豐以郎將入漢 從擊諸侯七百 戶	以越連敖從起 豐別以郎將入 漢擊諸侯以都 尉侯九百戶
十二年六月 元張	十二年六月 元張	十二年六月 元張	十二年六月 元張
七	七	七	七
四年元勝	三年慶元	八年	八年
四	五	十一年 十三年 元	二年 二十二年
三	六	十二年	八年 二十四年
四十八	五十二	七十九	七十五

太史公讀列封至便侯曰有以

也夫長沙王者著令甲稱其忠焉昔高祖定天下功臣非同姓疆土而王者八國至孝惠時唯獨長沙全禪五世以無嗣絕竟

無過爲藩守職信矣故其澤流枝庶母功而侯者數人及孝惠訖孝景間五十載追修高祖時遺功臣及從代來吳楚之勞諸侯子弟若肺腑外國歸義封者九十有餘咸表始終當世仁義成功之著者也

【講義】太史公列封の記を讀みて便侯に至りて感ずる所あり曰く吳淺の便に封せられしこと故あるかなと、そも便侯とは長沙王吳芮の子なり、長沙王は漢と同姓ならざるに功を以て特に王に列せらる、故に之を令甲に著して其の忠を稱せり、昔高祖の天下を定めし時、功臣の同姓にあらずして土を疆ひして王たりし者八國ありき、而して孝惠の時に至りては唯獨長沙王のみ全くして五世にまで傳へり、其の後孝文帝の後七年に靖王薨じてより嗣子無くして絶えぬ、其の間竟に一の過失無く、漢の藩屏となりて其の

職を守りき、信なるかな徳の子孫に及ぶこと、故に其の澤は便侯の子孫に流れ、功無くして侯となりし者數人に及べり、今孝惠より孝景の間に至るまでの五十年間の年表を作り、高祖の時の遺りの功臣と景帝に從ひて代より來れる功臣と吳楚七國の亂を平げし功臣と諸侯の子弟と外戚と外國より義によりて歸服して封せられたる者など九十有餘人を追ひ修め、皆之が始終を表しぬ、是れ皆當世仁義成功の著れたる者なり、

【字解】惠景、孝惠帝と孝景帝となり、便侯、便は縣の名也、便侯は長沙王吳芮の子の淺なり、有以也夫、以は故なり、也夫は歎辭なり、長沙王の徳の便侯の子孫に傳りしを感歎せるなり、令甲、令に甲乙丙丁等あり、第一第二といふに同じ、故に令甲は政令に同じ、八國、齊王韓信・韓王韓信・燕王盧縮・梁王彭越・趙王張耳・淮南王英布・臨江王共敖・長沙王吳芮、是なり、禪、傳ふなり、枝庶、分れのちすぢ、即ち便侯の子孫をいふ、從代來、景帝に從ひて來れる功臣を指す、吳楚之勞、吳楚七國の亂を平げしもの、肺腑、外戚なり、骨肉を同姓に稱し、肺腑を外戚に稱するなり、

年表說明

此年表の見方は高祖功臣侯年表第六に同じ、
表中に「右孝惠時三」(表中の第五行目)などあるは侯の數の三個なるを示せるなり、即ち便・軟・平都の如きは是れなり、
孝文二十三・孝惠十六(表中の第卅七行目)は在位年數を再書せるものとす、

國名	侯	功	孝惠七	高后八	孝文三十	孝景十六	建元六年至三年	太初已後
便	長沙王子、侯二	頃王吳淺	七	八	二十	後七年恭侯信元年	前六年侯廣志元年	元鼎五年侯千
軟	長沙相、侯七百	侯利倉	六	二	十六	彭祖元年	十八	元封元年侯秩爲三
平都	齊將高祖三	乙亥孝侯	二	八	二十	三年庚成元年	二十一	後元二年
右孝惠時三	高后姉長狗子、侯	元庚寅	二	八	二十	三年庚成元年	二十一	後元二年
扶柳	高后姉長狗子、侯	元庚寅	二	八	二十	三年庚成元年	二十一	後元二年
郊	呂后兄悼王	元庚寅	二	八	二十	三年庚成元年	二十一	後元二年

南宮	以父越人爲高	祖騎將從軍、以	大中大夫、侯	元侯七月丙寅	高后八年	侯買	元侯七月丙寅	高后八年
梧	以卒從起	留以卒從起	漢以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起
平定	以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起
博成	以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起
沛	以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起
襄成	以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起
軹	以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起	侯項以卒從起

壺關	沅陵	上邳	朱虛	昌平	贅其	中邑
子孝侯 子惠侯	長沙嗣成王子 侯	楚元王子侯	齊悼惠 王子侯	孝惠 子侯	呂后昆弟子用 淮陽丞相侯	以執事 入漢中 以中尉 六曹百 六戶
年侯四月元 辛卯年四	元侯八月元 申壬十	客侯七月元 申五	元侯七月元 申五	年侯三月元 癸未二	年侯四月元 丙申四	通真五月元 丙申四
國淮武五年 除陽為侯				國呂太七年 除王為	除誅氏坐侯八 國事呂勝年	年勝恭六年 元三侯年
	元侯七年後 福頃二	王客年孝 國為侯文 除楚郢元	王為一年孝 國城侯文 除陽章二	元侯十七年 後二年		
	六十 周元中 年哀侯五			六十五 國有年後 除侯元罪悼三		
	國無後 除後四周 後二					

樂平	山都	松茲	成陶	俞	滕	醴陵
尉侯起以 擊沛陳屬 六餘皇從 百餘高 戶用新 衛以祖	梁將中高 相軍柱祖 侯擊下五 陳令年 孫以為 用衛郎	山郡入從兵 丞家漢起初 相屬還沛起 侯功得以 用雍郎舍 常王吏人	五功人單以 百用度父卒 戶河呂為從 南氏呂高 守淮氏祖 侯之舍起	大它朝尉破以 夫襲陽定秦連 侯功侯諸入敷 用嬰侯漢從 太死功以高 中子比都祖	霸二以 上歲舍 用以入 楚都郡 相尉中 侯屯十	相河卒年以 侯南吏初卒 六都擊起從 百尉項櫟漢 戶長籍陽王 沙為二
澤侯二年元 丙申四	關侯五月元 丙申四	厲夷五月元 丙申四	信夷五月元 丙申四	元侯四月元 丙申四	始侯四月元 丙申四	年侯五月元 丙申四
				除誅氏坐侯八 國事呂官年	誅呂更八 國氏始年 除事坐侯	
元侯二十三年 後三年	元中惠四年 黃侯年	元悼康七年 元侯年	元侯十年十 年勃一孝二			三
	二十 三	十七 十二	國有三年十 除罪勃侯五			國有侯四孝 除罪越年文
元侯十五年 後三年	元觸敬四年 龍侯年	元侯十二年 中元				
	十三 二	四五				
吏法買侯建 罪又田修元 國請宅坐六 除求不以年	苑入八坐年元 國上奴下侯封 除蘭與當元	國有侯六建 除罪偃年元				

適	容成	易	范陽	翕	亞谷	隆慮
以匈奴王降侯 戶五千五百六十九	以匈奴王降侯 七百戶	以匈奴王降侯	以匈奴王降侯 戶千一百九十	以匈奴王降侯	以匈奴王降侯 子侯千五百戶	以長公主嫖子 侯戶四千一百
中元三年十二月 丁丑侯隆彊元年 不得降疆嗣	中元三年十二月 丁丑侯隆徐 無嗣	中元三年十二月 丁丑侯僕 無嗣	中元三年十二月 丁丑侯代 無嗣	中元三年十二月 丁丑侯邯 無嗣	中元三年十二月 丁丑侯父 無嗣	中元三年十二月 丁丑侯 無嗣
後元甲申四月 使巫則大君 祠無道除	後元甲申四月 使巫則大君 祠無道除	後元甲申四月 使巫則大君 祠無道除	後元甲申四月 使巫則大君 祠無道除	後元甲申四月 使巫則大君 祠無道除	後元甲申四月 使巫則大君 祠無道除	後元甲申四月 使巫則大君 祠無道除
後元甲申四月 使巫則大君 祠無道除	後元甲申四月 使巫則大君 祠無道除	後元甲申四月 使巫則大君 祠無道除	後元甲申四月 使巫則大君 祠無道除	後元甲申四月 使巫則大君 祠無道除	後元甲申四月 使巫則大君 祠無道除	後元甲申四月 使巫則大君 祠無道除

乘氏	桓邑	蓋	塞	武安	周陽
以梁孝王子侯	以梁孝王子侯	以孝景后兄侯 戶二千八百九十	以孝景后同母 弟侯戶八千二百一十四	以孝景后同母 弟侯戶六千二百一十六	以孝景后同母 弟侯戶六千二百一十六
中元五年五月 丁卯侯	中元五年五月 丁卯侯	中元五年五月 丁卯侯	中元五年五月 丁卯侯	中元五年五月 丁卯侯	中元五年五月 丁卯侯
中元六年六月 梁嗣侯	中元六年六月 梁嗣侯	中元六年六月 梁嗣侯	中元六年六月 梁嗣侯	中元六年六月 梁嗣侯	中元六年六月 梁嗣侯
中元六年六月 梁嗣侯	中元六年六月 梁嗣侯	中元六年六月 梁嗣侯	中元六年六月 梁嗣侯	中元六年六月 梁嗣侯	中元六年六月 梁嗣侯
中元六年六月 梁嗣侯	中元六年六月 梁嗣侯	中元六年六月 梁嗣侯	中元六年六月 梁嗣侯	中元六年六月 梁嗣侯	中元六年六月 梁嗣侯

右孝景時三十一

涉軹	宜春	陰安	發干	博望	冠軍	衆利
王至將以 處右軍校尉三 闕賢青尉從大 氏王驤三從大 功庭匈得奴	破以父大將軍青 右賢王功侯	破以父大將軍青 右賢王功侯	破以父大將軍青 右賢王功侯	絕知軍以 域永六校尉 大道年尉 夏及擊從 功前匈大 侯使奴將	左渾至騎元奴從從以 右邪祁將將斬大標 賢王連軍二相將將姚 王益益擊年國軍軍校 益封封匈以功擊六尉 封擊迎奴驃侯匈年再	級擊從以 以匈大上 上奴將谷 功首軍大 侯壽六守 千午四
元侯二月五年 李丁未四	元侯二月五年 衛丁未四	元侯二月五年 衛丁未四	元侯二月五年 衛丁未四	元侯一月六年 張甲辰三	元去侯一景壬四六 年病霍桓申月年	元侯一月六年 郝壬辰五
國有侯元 除罪朔年	六	六	六	六	六	國物一爲二 除上入上年 計戍谷侯 謾卒太賢 罪財守坐
國坐侯元 除法仇年	四	四	四	四	年元嬪六侯哀年元	國無嬪哀元 除後薨侯年

遼	宜冠	輝渠	從驃	下靡	漂陰	輝渠
侯以匈奴趙王降	匈擊將以 奴軍校尉 歸奴二尉 義功年從 侯出驃 故再騎	匈五騎侯擊將以 奴王將以匈軍校 歸功軍校奴二尉 義益二尉得年從 封年從王再驃 故驃功出騎	侯半河騎匈騎以 擊將將奴將司 樓軍功得軍馬 蘭元侯兩數再 功封以王深從 復三匈子入驃	以匈奴王降侯	將衆十萬降邪王 萬戶	以匈奴王降侯
元趙一壬元 年王煇悼七 年燬 除後死煇二 國無嘗年	識侯二月二年 元高乙亥正 除斬不軍擊 贖以功匈年 罪實增奴不 國首戰	元僕忠五乙二二 年多侯丑月年	元破侯五丁五二 年奴趙丑月年	尼侯五月二年 元呼乙亥六	邪定四月二年 元侯壬午七	訾悼四月三年 元侯壬午七
三 年元電侯年四	三 年元電侯年四	四 年元電侯年四	四 年元電侯年四	四 年元電侯年四	年蘇六魏元 元侯年	國無嘗侯二 除後死扁年
三 年元電侯年四	三 年元電侯年四	三 年元電侯年四	三 年元電侯年四	二 年元電侯年四	五 年元電侯年四	國無蘇魏五 除後薨侯年
四	四	四	四	四	四	四
			得爲奴軍渡破二 國處失擊稽奴年 除所軍匈將以侯			

